

タイ人日本語学習者の漢字語彙学習に対する
ストラテジー使用の現状

小林 英弘

(5880165122)

チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科

日本語講座・修士課程

2017年5月

チュラーロンコーン大学著作権

氏名 : 小林英弘
論文名 : タイ人日本語学習者の漢字語彙学習に対するストラテジー使用の現状
主査 : カノックワン・ラオハブラナキット・片桐准教授
ページ数 : 66pp

要旨

本研究はタイの大学で日本語を学ぶタイ人学習者 88 名を対象として、従来の先行研究ではあまり調査がされていない「漢字語彙学習」ストラテジーに関する質問紙調査を行い、学習期間の長さによるストラテジー使用の違いと相関について分析を行った。さらに、筑波大学留学生センターの漢字語彙能力測定テスト TTBJ の結果を基に、学習者を成績上位群と成績下位群に分け、双方の漢字語彙学習ストラテジー使用の相違点や特徴についても分析を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1) 従来の先行研究では「繰り返し書いて覚える」ストラテジーが最も使用されていると報告されているが、本研究では全ての期間において「心の中で繰り返し読み方を唱える」ストラテジーの方が上位に抽出された。このことから、学習者にとって「手」を使うストラテジーの使用が低下している傾向が示唆された。また、ストラテジーのカテゴリーに関しては「情意カテゴリー」のストラテジーが最も高頻度で使用されていることが判明した。

2) 学習期間が短い学習者ほど「反復カテゴリー」のストラテジーが多用されているが、学習期間が長くなるに従って使用頻度が低下している。また、学習期間が長くなることによる、ストラテジー使用の変化について平均値上位 5 位においては明らかな違いがみられなかった。

3) 成績上位群においては、成績下位群と比べ「日本語の歌の歌詞を読む」といった「文脈カテゴリー」のストラテジーが積極的に使用されていることが明らかになった。

文学部東洋言語学科

院生の署名 : _____

日本語講座

2016 年度

指導教官の署名 : _____

ชื่อสารนิพนธ์ : การศึกษาการใช้กลยุทธ์ในการเรียนคำศัพท์คันจิของผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทย
ชื่อผู้ทำสารนิพนธ์ : นายอิเดอิโร่ โคบายาชิ
อาจารย์ที่ปรึกษา : รศ.ดร.กนกวรรณ เลหาบุรณะกิจ คະตะกิริ
จำนวนหน้า : 66หน้า

บทคัดย่อ

งานวิจัยนี้มีจุดประสงค์เพื่อศึกษาเรื่องกลยุทธ์ในการเรียน “คำศัพท์คันจิ” ประชากรที่ใช้ศึกษาในงานวิจัยนี้ได้แก่นักศึกษาวิชาเอกภาษาญี่ปุ่นธุรกิจ ชั้นปีที่ 1-4 คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยธุรกิจบัณฑิต จำนวน 88 คน ผู้วิจัยวิเคราะห์ความสัมพันธ์ของการใช้กลยุทธ์ตามระยะเวลาที่เรียนภาษาญี่ปุ่นโดยใช้แบบสอบถามเป็นเครื่องมือวิจัย นอกจากนี้ยังวิเคราะห์ความแตกต่างและลักษณะเด่นในการใช้กลยุทธ์การเรียนคำศัพท์คันจิ โดยใช้ผลการทดสอบความสามารถด้านคันจิ TTBJ ของศูนย์นักศึกษาต่างชาติ มหาวิทยาลัยที่ซึ่คณะในการแบ่งกลุ่มประชากรเป็น 2 กลุ่ม คือ กลุ่มคะแนนคันจิสูงและกลุ่มคะแนนคันจิต่ำ ผลการศึกษาสามารถสรุปได้ดังนี้

1. วรรณกรรมที่ผ่านมาสรุปลไว้ว่าผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นนิยมใช้กลยุทธ์ “เขียนคันจิเข้าไปเข้ามา” มากที่สุด แต่จากผลการวิจัยนี้พบว่า ผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นนิยมใช้กลยุทธ์ “อ่านออกเสียงคำอ่านในใจ” มากกว่ากลยุทธ์ “เขียนคันจิเข้าไปเข้ามา” จึงกล่าวได้ว่า ผู้เรียนมีแนวโน้มที่จะใช้กลยุทธ์ที่ใช้ “มือ” ในการฝึกฝนคันจิน้อยลง นอกจากนี้ยังพบว่าผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นนิยมใช้กลยุทธ์เกี่ยวกับ “ความรู้สึก” มาก

2. ผู้ที่เรียนภาษาญี่ปุ่นไม่นานนิยมใช้กลยุทธ์เกี่ยวกับ “การฝึกเข้าไปเข้ามา” แต่เมื่อระยะเวลาการเรียนภาษาญี่ปุ่นยาวขึ้น การใช้กลยุทธ์ดังกล่าวจะลดลง นอกจากนี้ เมื่อพิจารณาการเปลี่ยนแปลงการใช้กลยุทธ์ของผู้เรียนตามระยะเวลาที่เรียนภาษาญี่ปุ่นแล้วพบว่าไม่มีความแตกต่างการใช้ในกลยุทธ์ที่ใช้มากที่สุด 5 อันดับแรก

3. กลุ่มผู้เรียนที่ได้คะแนนคันจิสูงมีความกระตือรือร้นที่จะใช้กลยุทธ์เกี่ยวกับ “บริบท” เช่น “การอ่านเนื้อเพลงภาษาญี่ปุ่น” มากกว่ากลุ่มผู้เรียนที่ได้คะแนนคันจิต่ำ

ภาควิชาภาษาตะวันออก

ลายมือชื่อนิสิต.....

สาขาวิชาภาษาญี่ปุ่นเป็นภาษาต่างประเทศ

ลายมือชื่ออาจารย์ที่ปรึกษาสารนิพนธ์.....

ปีการศึกษา2559

謝辞

本稿の執筆にあたり、主査のカノックワン・ラオハブラナキット・片桐先生には、終始厳しくも温かいご指導と貴重なご意見を賜りました。心より御礼を申し上げます。

また、池谷清美先生には白紙の研究計画からテーマを決定し、研究を進めていくにあたり懇切丁寧なご指導を頂きました。深く感謝申し上げます。

本稿の調査にあたっては、トゥラキット・バンディット大学ビジネス日本語学科の学生たちに協力を頂きました。また、日本語学科長であるスィラダー・ブンサーム先生には、お忙しいにも関わらず終始心温まるご支援をいただきました。深く御礼を申し上げます。

吉嶺加奈子様には、本論文を丁寧に査読して頂くとともに貴重なコメントを頂きました。心より御礼申し上げます。

最後になりますが、一緒に頑張ってきた同期の皆様。研究を応援してくれた友人達。そして、チュラーロンコーン大学の教職員の皆様方に改めて感謝の意を表します。ありがとうございました。

2017年5月15日

小林英弘

目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究の目的	3
第2章	先行研究	4
2.1	漢字学習ストラテジー研究	4
2.1.1	非漢字圏での漢字学習ストラテジー研究	4
2.1.2	学習期間および、成績上位群と成績下位群に分類をして調査を行なった研究	7
2.1.3	従来型漢字学習ストラテジー研究の概観と問題点	11
2.2	漢字語彙学習ストラテジー	12
2.3	漢字語彙能力測定テスト「筑波日本語テスト集 (TTBJ)」	14
2.3.1	TTBJの概要	14
2.3.2	TTBJ「漢字語彙 30」オンラインテスト	16
第3章	研究課題	18
3.1	研究課題 1 学習期間の長さによる、漢字学習ストラテジー使用の特徴	18
3.2	研究課題 2 「成績上位群」と「成績下位群」が使用しているストラテジーの特徴	18
第4章	調査方法	20
4.1	調査 1 DPUでのインタビュー予備調査	20
4.1.1	先行研究での調査項目	20
4.1.2	予備調査対象者と調査期間	20
4.1.3	予備調査の方法	21
4.1.4	予備調査の結果	21
4.1.5		
4.2	調査 2 DPUでの本調査（質問紙調査と TTBJ を利用したオンラインテスト）	22
4.2.1	本調査の目的	22
4.2.2	質問紙調査の対象者	22
4.2.3	漢字語彙学習ストラテジーに関する質問紙調査	22
4.2.4	質問紙調査票の信頼性の検討	30
第5章	調査結果	31
5.1	学習期間の長さによる、漢字語彙学習ストラテジー使用傾向の特徴	31
5.1.1	学習期間別における、使用頻度上位の特徴	33

5.1.2	学習期間別における、使用頻度下位の特徴	35
5.1.3	学習期間別における、使用頻度中位 19 位～24 位についての特徴	36
5.2	対象者 88 名全体のストラテジー使用頻度の結果	37
5.2.1	88 名全体の上位 15 項目	37
5.2.2	88 名全体の下位 15 項目	38
5.2.3	88 名全体の漢字語彙学習ストラテジー分類に関わる基礎統計量と相関係数	39
5.3	TTBJ のテスト結果を基にした、成績上位群と下位群が使用しているストラテジー	40
5.3.1	TTBJ 成績上位群と下位群の使用ストラテジー（上位 15 項目）	41
5.3.2	TTBJ 成績上位群と下位群の使用ストラテジー（下位 15 項目）	43
第 6 章	考察	45
6.1	考察 1「学習期間の長さによる、漢字学習ストラテジー使用の特徴」	45
6.1.1	学習期間の長さに関係しないと推察されるストラテジー	45
6.1.2	学習期間の長さに関係すると推察されるストラテジー	45
6.1.3	「何度も繰り返す」ストラテジー使用状況の変化	47
6.2	考察 2「成績上位群」と「成績下位群」が使用しているストラテジーの特徴	48
6.2.1	成績結果に関係しないと考えられるストラテジー	48
6.2.2	両群のストラテジー使用の種類	49
6.2.3	「文脈カテゴリー」のストラテジー使用状況	50
6.2.4	「学習管理・協力カテゴリー」のストラテジー使用状況	50
6.2.5	「反復カテゴリー」のストラテジー使用状況	51
6.2.6	両群の特徴とまとめ	51
第 7 章	本研究のまとめ	53
第 8 章	日本語教育への提案	55
第 9 章	今後の課題	57
	参考文献	58
	添付資料	61

図表の目次

表 1	漢字学習ストラテジーの 3 つの分類.	8
表 2	ウラムバヤル (2009) 質問紙調査による漢字学習ストラテジーに関する研究.	11
表 3	調査対象者 渡部 (2015 : 35) を参照.	13
表 4	TTBJ テストの概要 加納・魏 (2014) を参照.	15
表 5	TTBJ オンラインテストの種類 加納・魏 (2014) を参照.	15
図 1	TTBJ 漢字 SPOT のテスト画面 (TTBJ の HP より)	16
表 6	DPU での予備調査対象者.	20
表 7	予備調査で新たに抽出された漢字語彙学習ストラテジー.	21
表 8	i .日本の学習環境に起因すると判断して削除したもの 16 項目.	23
表 9	ii .日本語能力に起因すると判断して削除したもの 5 項目.	24
表 10	iii .対象者にとって一般的に使用されていると判断して削除したもの 10 項目.	24
表 11	iv .質問内容の類似により、複数の項目を削除して 1 つにまとめ直したもの 20 項目.	25
表 12	v .その他の理由により、削除したもの 5 項目.	26
表 13	調査に用いた漢字語彙学習ストラテジー42 項目.	28
表 14	質問調査票の信頼性.	30
表 15	調査対象者の内訳.	31
表 16	学習期間別における漢字語彙学習ストラテジー使用の平均値と使用頻度順位.	32
表 17	平均値 3.00 を上回っていたストラテジーの出現項目数.	34
表 18	平均値 2.00 を下回っていたストラテジーの出現項目数.	36
表 19	対象者 88 名全体のストラテジー使用頻度・上位 15 項目.	37
表 20	対象者 88 名全体のストラテジー使用頻度・下位 15 項目.	38
表 21	88 名全体の漢字語彙学習ストラテジー分類に関する相関係数.	39
表 22	TTBJ の結果と人数分布.	41
表 23	TTBJ 成績上位群と成績下位群のストラテジー使用頻度の結果 (上位 15 項目)	41
表 24	TTBJ 成績上位群と成績下位群のストラテジー使用頻度の結果 (下位 15 項目)	43
表 25	学習期間別における漢字語彙学習ストラテジーの使用頻度順位 (上位 5 位・下位 5 位)	46
表 26	「成績上位群」と「成績下位群」が使用しているストラテジー上位 10 項目.	49

添付資料の目次

添付資料 1	DPU での予備調査結果から抽出された 55 項目の漢字語彙学習ストラテジー.	61
添付資料 2	本調査で使用了した調査用紙.	63

第1章 はじめに

本研究は、非漢字圏であるタイ人の大学生が使用している漢字語彙学習ストラテジーの調査を通して、学習者が漢字語彙に対し、どのようなストラテジーを使用しながら学習を進めているのかを検証するものである。この章では、まず、本研究の背景について述べる。次に、本研究の目的を示すものとする。最後に本稿の構成について述べる。

1.1 研究背景

筆者は2010年より、タイ国トゥラキット・バンディット大学教養学部ビジネス日本語学科（以下DPU）で勤務をしている。学習者は全てタイ語母語話者であり、学習経験が無く入学してから日本語学習を始めた未習者の数も多い。1年目の初級クラスでは、短期間でひらがなとカタカナを学習しながら、文法と漢字の学習が並行して行われている。そういった学習環境において、特にゼロ初級から日本語を学んでいる学習者から「漢字に対する学習方法が分からない」「漢字は難しい」といった声を頻繁に耳にする。

漢字学習について、豊田（1995）では、「漢字は学習者にとって重要な学習要素であるが、時間的制約等の理由からその大部分が学習者の自学自習に委ねられてきた。（中略）教室では簡単な紹介と練習をし、あとはテストで定着を図るという方法を採用している教育機関が多いように見受けられる。」と述べている。

豊田の指摘通り、DPUでも基本的に漢字学習は学習者自身に任されているのが現状である。初級クラスの漢字導入時では、その成り立ちや特徴、書き順などの説明は授業内で行われている。しかし、原則的には学習者の自学・自習で進めるように指導されているため、それ以後の授業において時間を確保してまで漢字の学習ストラテジーを学ぶ活動はほとんど存在していない。そのため、これまで学習者がどのような漢字学習ストラテジーを用いながら学習を進めているのかは不明であった。

また、学習者による漢字学習を難しくしている要因として、漢字には「文字・表記」という側面だけではなく「漢字語彙」としての側面があることも挙げられる。

横須賀（1999）は、アルファベットのような表音文字とは異なり、漢字は音韻とともに意味を表す機能を持ち、個々の文字が一つの意味としての単語となり得る「表語文字」として述べている。さらに「1字でも2字以上の組み合わせでも語・熟語として成立できるという『語』

としての性質からは、漢字語彙は『語彙』全般と共通したものとみなすことができる。」と報告している。

学習者は初級レベルで学ぶ比較的簡単な漢字語彙から、作文や読解、翻訳などへと授業の学習レベルが進んでいくに連れて、必要とされる漢字語彙の数は増加の一途を辿っていき、日本語の学習をより困難なものにしているのが現状である。

このような状況を踏まえ、筆者は DPU の学習者がどのようなストラテジーを使用しながら、漢字の学習を進めているのかを明らかにする必要があると考えた。

非漢字圏学習者を対象とした、漢字学習ストラテジーの先行研究では、Oxford (1990) のストラテジー分類 SILL (Strategy Inventory for Language Learning) や、Bourke (2006) が開発した漢字学習ストラテジーに特化した分類である SILK (Strategy Inventory for Learning Kanji) のストラテジー項目を参照し、その一部を改変して作成された調査票を使用している研究が多い。

(大北 1995, 中村 1997, 齊藤 2003, 中鉢 2006, ヴェントゥーラ 2007, ソムチャイ 2008, 坂野・池田 2009, マテラ 2013, 佐藤・笠原 2016, 谷口 2016)。

しかし、ウラムバヤル (2009) は、SILL や SILK の分類を使用した質問紙調査項目は、単漢字に着目した質問項目が多く、熟語や文脈の中での漢字語彙に着目した質問項目が少ないと指摘している。それと同時に、漢字学習成功者は「文脈の中で漢字を使用する」ストラテジーを使用している傾向があるが、これらに関連する調査項目の数や種類が少ないために、結果を一般化するまでに至っていないことも報告している。

一方、渡部 (2015) は、「SILK は文字としての漢字の学習を想定した学習ストラテジー項目がほとんどを占めている」と漢字学習ストラテジー分類の問題点を指摘している。さらに、従来の漢字学習ストラテジー研究を踏まえた上で、「漢字語彙学習ストラテジー」について更に詳しく取り上げる必要性に言及し、非漢字圏出身学習者のための「漢字語彙学習ストラテジー尺度」の開発を試みている。

これは日本語母語話者 18 名と、非漢字圏出身の日本語学習者 28 名を対象として、ストラテジーの使用状況についてインタビュー調査を実施したものである。この調査結果を基にして、従来の大まかな内容のストラテジー項目よりも、更に具体的で詳細な 87 項目の漢字語彙学習ストラテジーリストを作成している。しかし、「漢字語彙学習ストラテジー尺度」はまだ作成途中の段階であり、未だ完成までには至っていない。

このような状況から、本稿での質問紙調査では、「単漢字」や「文字としての漢字」に着目した従来型の「漢字学習ストラテジー」の調査ではなく、文脈の中での漢字語彙に関する質問項目を数多く含む「漢字語彙学習ストラテジー」での質問紙調査を行う必要があると考えた。

1.2 研究の目的

本稿の目的は以下に述べる4点である。

1. 渡部（2015）が作成した87項目の漢字語彙学習ストラテジーリストを参考にしながら、JFL（Japanese as a Foreign Language）環境下における、タイ国内で日本語を学ぶ学習者に向けた、新たな質問調査項目の作成を行う。
2. 1.で新たに作成した調査項目を用いて、「DPUの学習者がどのように漢字語彙を学習しているのか」といった調査を行ない、学習者の漢字語彙学習ストラテジー使用の現状を検証する。
3. 学習期間の長さ、使用する漢字語彙学習ストラテジーの相関関係について調査を行ない、その特徴を明らかにするものとする。
4. 漢字語彙学習に問題がある学習者と、問題がない学習者が使用しているストラテジーの相違点を明らかにするため、漢字語彙テストでの成績結果を基に、学習者を「成績上位群」と「成績下位群」に分けて、双方の漢字語彙学習ストラテジー使用状況と関係性を明らかにする。

これらの調査を行なうことにより、今後の有効な漢字語彙指導の指標として、授業の現場で役に立てることができるものとする。

本稿の構成は以下の通りである。第1章では、研究背景と目的について述べる。第2章では、先行研究について述べる。第3章では、研究課題について述べる。第4章では、調査方法について述べる。第5章では、調査結果について述べる。第6章では、考察について述べる。第7章では、本研究のまとめについて述べる。第8章では日本語教育への提案について述べる。最後の第9章では、今後の課題について述べる。

第2章 先行研究

本章では、先行研究について述べる。

まず、2.1 では日本語学習者の漢字学習ストラテジー調査に多く使用されている Oxford (1990) のストラテジー項目 SILL (Strategy Inventory for Language Learning) と、Bourke (2006) が開発した、漢字学習ストラテジーに特化した項目である SILK (Strategy Inventory for Learning Kanji) を用いている主要な先行研究 11 編について述べる。

1 編目から 6 編目では、漢字学習ストラテジーや、漢字学習ストラテジーとビリーフの相関関係について分析している先行研究について述べる。7 編目から 10 編目では、漢字学習ストラテジーと学習期間の関連性を論じている研究。そして、学習者を成績上位群と成績下位群に分類し、漢字学習ストラテジーの使用傾向を分析した先行研究について述べる。11 編目では従来の漢字学習ストラテジー研究の概観を行い、その問題点について論じている研究について述べる。

次に、2.2 では、新たな漢字語彙学習ストラテジー尺度について論じている研究について述べる。2.3 では、筑波大学留学生センターが開発した漢字語彙能力測定テスト「筑波日本語テスト集 (TTBJ)」について述べる。最後に、先行研究と本研究との関係について言及するものとする。

2.1 漢字学習ストラテジー研究

2.1.1 非漢字圏での漢字学習ストラテジー研究

1. 大北 (1995) では、米国ハワイ大学マノア校に在籍する、日本語学習が 1 年から 3 年目の 84 名の非漢字圏学習者を対象にして、「漢字学習ストラテジー」「漢字学習に対する信念」「ストラテジー使用頻度の変化」について質問紙調査を行なった。ストラテジーの質問項目は、Oxford (1990) の SILL を基に漢字学習用に修正をした 28 項目を使用し、5 段階評定にて調査を行なった。

その結果、最も多く使用されていたストラテジーは「書写」であり、次に「市中の看板などを読む」ストラテジーを使用していることが明らかになった。ここから、学習者は「繰り返し書いて」漢字を覚えながらも、ハワイの豊富な日本語環境を積極的に活用している実態がうかがえる。

また、ほとんどのストラテジー項目の使用において、学年別の差は見られなかった。しかし、1年目の学習者はフラッシュカードの使用が最も頻繁だが2年目で急減している。2年目の学習者では「漢字を見た場所などを覚える」項目を、1年目や3年目と比較して頻繁に使用している。3年目の学習者では「翻訳せずに理解しようとする」項目が、1年目や2年目よりも頻繁に使用されている状況が明らかになった。こういった差が見られたストラテジーは、対象者の学習レベルに見合って抽出されたものだと考えられる。

2. ヴェントゥーラ（2007）では、フィリピンにおける日本語学習者と教師の漢字学習に対するビリーフとストラテジー使用状況を調べるために、大北（1995）での質問項目を一部借用した質問紙調査とインタビューを行った。対象者はマニラにある9機関で日本語を学習しているフィリピン人日本語学習者209名と、マニラ13機関と地方2機関で教師をしているフィリピン人日本語教師25名である。

その結果、学習者が最も使用している漢字学習ストラテジーは「新しく習った漢字を繰り返して書く」であり、「新しく習った漢字の形を目で覚える」「似ている漢字の違いを観察する」が次に続いた。上位には漢字の形を覚えるストラテジーが多く、下位には漢字の読み方を覚えるストラテジーが多く抽出された。このことから、フィリピン人日本語学習者は漢字を音よりも形から覚えようとする傾向が強いことが明らかになった。

一方で、日本語教師が最も多用している漢字学習ストラテジーは「知らない漢字を見たら、その漢字をすぐ辞書で調べる」であり、次いで、「新しく習った漢字の書き順を暗記する」「新しく習った漢字を覚えるためにそれを繰り返して書く」が続いている。これは、教師の68%は日本で日本語を学習したので、辞書を使用して自習する習慣がついているからだと述べている。また、「非漢字系の学習者にとって、漢字学習は確かに困難であるが、漢字自体の難しさ以外に様々な要因が学習者の漢字学習・習得過程に影響を与えている」と報告している。

3. ソムチャイ（2008）では、初級後半以上のタイ人日本語学習者197名（大学生96名と日本語学校生101名）を対象として、漢字学習に対するビリーフとストラテジーの質問紙調査を実施している。調査票の質問項目は、漢字学習に対するビリーフが42問、ストラテジー使用が26問の4段階評定であり、ヴェントゥーラ（2007）が使用したものを一部借用してタイ語に翻訳している。

その結果、タイ人学習者が最も使用しているストラテジー項目は、「よく知らない漢字に振り仮名を振る」（平均値 3.38）であった。次いで、「漢字を覚えるために繰り返して書く」（平均値 3.05）、「似ている漢字の違いを観察する」（平均値 3.03）といったストラテジーが上位に続いている。平均値 3.00 以上を示したストラテジー項目はこれらの 3 項目だけである。

以上の結果を踏まえ、タイの大学生や日本語学校生の双方共に、新しく習った漢字を覚えるために「認知ストラテジー」を最も多用していることが明らかになった。

4. 坂野・池田（2009）では、日本とアメリカの大学で学んでいる非漢字圏の学習者 151 名を対象として、漢字学習意識とストラテジーに関する調査を行なっている。さらに、学習者を 3 つのグループ（既習漢字数 0-149、既習漢字数 155-499、既習漢字数 500 以上）に分けて、既習漢字数の違いによって生じる学習者のビリーフやストラテジーの変化についても分析を行った。調査項目は、（大北 1995、加納 1997、豊田 1995）を参考に 10 項目を作成して、5 段階評定を採用している。

その結果、学習者全体で最も高頻度で使用しているストラテジーは「漢字を繰り返し書く」であった。次いで、「漢字やその漢字が入った熟語や文と一緒に覚える」が抽出されている。一方で、最も低いストラテジーは「コンピューター教材を使う」であった。

それぞれ 3 つのグループにおいても、最も高いストラテジーは「漢字を繰り返し書く」であり、これは他のストラテジーに比べても非常に高い平均値を示している。以上の結果から、漢字学習の際に最も使用されているストラテジーは「繰り返し書く」であることが明らかになった。

5. マテラ（2013）では、チェコの大学において日本語学習者の漢字学習に対する意識調査（115 名）と、どのような漢字学習ストラテジーを使用しているか（113 名）への質問紙調査および、27 名へのインタビュー調査を行った。ストラテジーの調査項目は Bourke（2006）が作成した SILK（Strategy Inventory for Learning Kanji）を参考にして 45 項目を設定し、4 段階評定を行っている。

調査の結果、対象者に最も使用されている漢字学習ストラテジーは「漢字を繰り返し書いて記憶する」だった。次いで、「知らない漢字の意味を辞書で調べる」「知らない漢字の読みを辞書で調べる」が続いている。このことから、チェコの大学生は「頻度」や、辞書を使用する

「補償」戦略を高頻度で使用していることが明らかになった。また、インタビュー調査の結果、学習者は使用する戦略を変える場合があることを報告している。

6. 佐藤・笠原（2016）では、マレーシア政府からの奨学金を受けて、日本語や理工系の専門知識を学ぶマレーシア高専予備教育コースのマレー・インド系学習者 109 名を対象にして漢字学習戦略使用調査を行なった。戦略調査項目は、SILK と SILL を参考に 40 項目を設定し、4 段階評価を行っている。

その結果、学習者が最も頻繁に使用している戦略は「漢字を何度も書く」であった。これは、109 名中 103 名（94%）の学習者が使用している。次いで、「テキスト順に覚える」（83%）、「読み方を何度も書く」（81%）と続いている。このことから、対象者は漢字を学習する際に、「繰り返し何度も書いて覚える」戦略を高頻度で使用していることが明らかになった。これは、先行研究（大北 1995, ヴェントゥーラ 2007, ソムチャイ 2008, マテラ 2013）と類似の結果となっている。

その他にも、漢字試験の成績結果を基にして、初級から中級にかけて伸びが見られた学習者 22 名を選び出して分析を行っている。その結果、22 名に最も使用されている戦略は「辞書で調べる」（91%）であり、次いで、「漢字を何度も書く」（86%）、「中国系の友達に聞く」（82%）であった。伸びが見られた学習者は補償戦略を使用する割合が高いことを報告している。

これらの結果を踏まえて、非漢字圏の学習者では、国籍を問わず「繰り返して書く」という戦略が頻繁に使用されている現状が明らかになった。

2.1.2 学習期間および、成績上位群と成績下位群に分類をして調査を行なった研究

次に、漢字学習戦略と学習期間の関連性を論じている先行研究と、学習者を漢字テストによって成績上位群と成績下位群に分類し、漢字学習戦略の使用傾向を分析した先行研究について述べる。

7. 齊藤（2003）では、対象者であるマレーシア政府派遣留学生を、学習期間ごとに 3 年、4 年、5 年、6 年、7・8 年と分類を行い、学習期間と漢字学習戦略との関連を分析している。調査対象者の有効回答数は計 242 名であり、調査票は大北（1995）や SILL を参考にして 44 項目を設定している。

得られた結果から、漢字学習戦略には学習期間によって変化することがない「①一般的な戦略」と、学習期間によって変化をしていく「②基本的な戦略」。さらに、個々の工夫や努力によって、複合的な戦略へと変化していった「③複合化・個別化した戦略」という3つの分類があることを報告している。以下表1に詳細を述べる。

表1 漢字学習戦略の3つの分類 齊藤（2003）を参照し筆者作成

<p>学習期間によって変化しない 普遍的な戦略</p>	<p>①一般的な戦略</p> <p>「反復すること」 紙に繰り返し書く、復習する、 「物的リソースを使用する」 日本のテレビやビデオ等を見るようにする、辞書を使う</p>
<p>学習期間によって変化する 戦略</p>	<p>②基本的な戦略</p> <p>「音に注目する」「組み合わせる」「連想する」 「イメージする」「グループに分ける」など</p> <p style="text-align: center;">↓ 既知知識の応用や個人差</p> <p>③複合化・個別化した戦略</p> <p>「連想する」＋「読む」 「連想する」＋「物的リソースを使用する」 「グループに分ける」＋「部分と全体の両方に注目する」</p>

「①一般的な戦略」とは、「反復すること」「物的リソースを使用すること」の2つに大約ができる。「②基本的な戦略」とは、「音に注目する」「連想する」「グループに分ける」などのことである。また、「③複合化・個別化した戦略」とは、「連想する＋読む」「グループに分ける＋部分と全体の両方に注目する」といった2つの要素を複合させたものや、個々の工夫や努力に関わるものである。

調査用紙の結果では、学習期間に関わらず「紙に繰り返し書く」「復習する」「日本のテレビやビデオ等を見るようにする」「辞書を使う」の4項目がすべての学習者において高い割合で使用されていた。一方で、「韻を使う」「フラッシュカードを使う」の2項目は、全ての学習期間において下位に抽出されており、どの学習者にもほとんど使用されていないことが明らかになった。

8. 中村(1997)では、北海道大学留学生センター日本語研修コースにおいて、初級日本語を学習していた非漢字圏からの文部省国費留学生17名を対象に、授業で学んだ漢字をどのような学習戦略を用いて定着させているかを調査した。20項目の調査項目はSILLなどを参考として作成されている。また、調査時点までに行われた2回の漢字試験(総合200点満点)の得点を基に、成績上位群6名と下位群6名に対象者を分け、両群が使用している戦略使用頻度の分析を行っている。

調査の結果、総合的に最も使用されているのは「クイズの予習・復習を必ずする」であった。

続いて、「同じまちがいをしないように注意する」「何度も書く練習をする」戦略が抽出された。

全体として、記憶戦略の使用頻度が高く、認知戦略やメタ認知戦略については、成績上位群と下位群との間で使用頻度平均値に大きな差は見られなかった。

さらに、成績上位群の注目すべき点としては、「書く時、声を出して読む」という戦略使用頻度が高かった。このことから、上位群の学習者は字形や意味だけではなく、「読み方」も一緒に覚えようとしていることがうかがえる。一方、成績下位群では、「日本人の友人に質問する」「教師に質問する」「留学生の友人に質問する」などの、社会的戦略の使用頻度が上位群よりも高いことを報告している。

9. 中鉢(2006)では、漢字学習者を「学習成功者」と「学習不成功者」に分け、それぞれが使用している漢字学習戦略使用の違いについて調査を行なった。質問紙調査はOxford(1990)のSILLを参考にして33項目の5段階評定にて作成されている。

対象者は米国モンタナ大学で日本語を学習している2年生と3年生の25名である。学習者を「学習成功者」と「学習不成功者」に分けるために、書き取り25問、読み25問の合計50点の漢字テストを抜き打ち形式で行っている。出題された漢字は1年生時に使用された教科書の中

から、調査実施者が基本的なものをランダムに 50 個選択したものである。このテスト結果から、40 点以上を獲得した 4 名の学習者を「学習成功者」、20 点以下の 6 名の学習者を「学習未成功者」として分類を行った。

対象者全体の質問紙調査の結果、「繰り返して書く」が最も使用されているストラテジーであった。さらに、「漢字のパターンを意識しながら、発音練習を入れて、繰り返し書く」ストラテジーが全体に共通して使用されていることが明らかになった。

一方、漢字学習の「学習成功者」と「学習未成功者」では、使用する漢字学習ストラテジーに違いが見られた。使用頻度平均が 4.0 以上の項目が「学習成功者」は 14 項目あるのに対して、「学習未成功者」は 4 項目しか抽出されなかった。また、3.0 未満の項目は「学習成功者」が 7 項目に対し、「学習未成功者」は 10 項目あった。このことから、「学習成功者」のほうが、より多くのストラテジーを使用して漢字を学習している現状が明らかになった。

前述の調査結果から両者共に、「繰り返して書く」ことで漢字を覚えていることが明らかになっているが、学習した漢字の保持力という点では双方に大きな差があった。「学習成功者」は、「覚えた漢字を使う」「メモなどを日本語で書く」「できるだけ日本語を読む」といった、既習漢字の保持と復習に繋がる努力や活動を教室外でも積極的に行っているが、「学習未成功者」は特に漢字を意識する活動をしていないと報告している。

10. 谷口 (2016) では、マレーシアのマラヤ大学・予備教育部日本留学特別コースで学ぶ日本語学習者 100 名を対象として、漢字学習ストラテジーに関する質問紙調査を縦断的に行なった。対象者の入学後 4 ヶ月と 1 年後の 2 回調査を行ない、学習期間によるストラテジー使用傾向の変化を分析している。さらに、2 回目の調査直前に行なわれた漢字試験の結果を用いて、成績上位群と下位群が使用するストラテジー使用の特徴について分析を行った。質問項目は Bourke(1996)の SILK を参考にして、一部変更を加えた 56 項目の 5 段階評定にて作成されている。調査の結果から、以下の 3 点を報告している

1. 学習期間が長くなるにつれて、漢字の知識を整理するためのストラテジー使用頻度が高くなるが、それは成績上位群において強い。
2. 学習期間が長くなるにつれて「覚えるまで何度も書く」というストラテジー使用頻度が下がり、その他の記憶ストラテジー、補償ストラテジーの使用頻度が上がる。
3. 成績上位群は「できるだけ漢字を使用する」ストラテジーを継続的に高頻度で使用している。

2.1.3 従来型漢字学習ストラテジー研究の概観と問題点

11. ウラムバヤル（2009）では、従来行われてきた非漢字圏日本語学習者を対象にした、質問紙調査による漢字学習ストラテジーに関する研究を概観し、その多くが Oxford（1990）による、SILL に基づいて調査項目の設定が行われていると報告をしている。また、漢字学習ストラテジーに特化した Bourke（2006）の SILK（Strategy Inventory for Learning Kanji）については、ストラテジー項目の分類方法に課題が残ると指摘を行っている。以下表 2 に、ウラムバヤルがまとめた、質問紙調査による漢字学習ストラテジーの主要な研究結果を転載する。

表 2 ウラムバヤル（2009）質問紙調査による漢字学習ストラテジーに関する研究

研究	対象者数	学習レベル (学習期間)	対象者の母語 (出身地・国数)	漢字能力別の比較の有無	調査の国	項目数	項目の内容					
							直接ストラテジー			間接ストラテジー		
							記憶	認知	補償	メタ認知	情意	社会
大北(1995)	84	初級	英語	無	米国(ハワイ)	30	24		3	3		
中村(1997)	17	初級	(15カ国語)	有	日本	20	10	2	2	2	1	3
加納(1997)	132	初級～中級	(28カ国)	有	日本	9	8	1				
齊藤(2003)	242	(3年～8年)	マレー語	無	日本	43	34	2	5	2		
ウラムバヤル(2005)	135	(1年～4年)	モンゴル語	有	モンゴル	29	20	2	2	4		1
中鉢(2006)	25	中級	英語	有	米国	33	22	2	1	8		
ヴェントゥーラ(2007)	209	様々	フィリピン語	無	フィリピン	26	23		1	2		

(ウラムバヤル 2009 : 46 より転載)

これらの主要研究は、加納（1997）以外の 6 編は SILL の項目に基づいて質問が設定されているが、質問項目の数や内容が不揃いであることが挙げられている。さらに、全体的に記憶ストラテジーに関する項目数が多く、間接ストラテジーに関する項目数が少ないことを指摘している。また、漢字学習ストラテジーの定義と分類の難しさについても言及し、質問紙調査における質問項目が「特に単漢字レベルでの記憶ストラテジーに集中」しており、漢字熟語や文脈中の「漢字語彙」に着目した質問項目が少ないことを指摘している。

その他、「従来の漢字学習に成功した学習者が、具体的にどのようなストラテジーを使用しているのか」という課題について、先行研究結果の概観を行い、「漢字学習成功者が文脈の中で漢字を使用している傾向が高い」ことを明らかにした。しかし、文脈や漢字語彙に関連する

調査項目数や種類が少なく、一般化するまでには未だ至っていないため、今後さらに検証を進めるべきだと言及している。

一方、漢字能力テストの結果を基にして学習者を成績上位群（学習成功者）、成績下位群（学習未成功者）に分けていた従来の研究では、漢字能力の測定に様々な方法¹が使用されている。そのため、今後はより適切に学習者の漢字能力を把握していく必要があると述べている。

そういった状況を踏まえ、ウラムバヤルは、加納（2004）が開発した、漢字の形・読み・意味・用法に関する知識を反映させた、筑波大学留学生センターの漢字語彙能力測定テスト「筑波日本語テスト集」（Tsukuba Test Battery of Japanese 以下 TTBJ）²を取り入れることで、より精密な研究が可能になるだろうと報告している。

本研究においては、学習者の漢字語彙能力と漢字学習ストラテジーの関係をよりの確に把握するため、ウラムバヤルによって言及をされていた TTBJ を使用するものとする。TTBJ については、2.3 において改めて詳細を述べるものとする。

2.2 漢字語彙学習ストラテジー

本節では、従来の漢字学習ストラテジー調査の問題点と、新たな漢字語彙学習ストラテジー尺度の作成について報告している先行研究について述べる。

渡部（2015）では、「SILK は文字・表記としての漢字の学習について扱うストラテジーの項目がほとんどを占めており、漢字学習のもう一つの側面である漢字語彙学習についてのストラテジー項目は極端に少ない」と問題点を指摘している。また、その状況を踏まえ、SILL や SILK の項目に代わる新たな 87 項目の「漢字語彙学習ストラテジー」の質問調査票を作成した。

この調査票は、「大まかな内容のストラテジー項目よりも、より多くのストラテジーを網羅した項目が必要である」という考えを基に開発され、従来ほとんど存在しなかった IT 機器使用についての項目も数多く取り上げている。また、質問事項が漢字語彙学習ストラテジーに特化していることが最大の特徴である。

¹ 中村（1997）は、2回の漢字試験を行い総合 200 点満点。中鉢（2006）は書き取り 25 問、読み 25 問の 50 点満点、谷口（2016）は読み 60 問、表記 30 問の 90 点満点である。

² TTBJ は、筑波大学留学生センターにおいて長年をかけて研究・開発されてきた様々なテストを WEB 上で受験可能なシステムにしたものである。

調査票の 87 項目は、2014 年 7 月～8 月にかけて、以下に述べる対象者へインタビュー調査を行い作成された。以下表 3 に詳細を述べる。

表 3 調査対象者 渡部 (2015 : 35) を参照し筆者作成

対象者	人数
日本人大学生	18 名
非漢字圏出身の留学生	24 名
既に帰国した元留学生	4 名
	合計 46 名

(注) ここでの非漢字圏とは、中国、台湾、韓国、ベトナム以外の出身を指す
帰国している留学生には Skype のビデオ電話にてインタビューを行っている

日本の大学と高等専門学校に留学中の非漢字圏学習者 24 名と、既に帰国した元留学生 4 名、そして、日本人大学生母語話者 18 名の合計 46 名に対して、30 分～1 時間程度の「漢字語彙学習ストラテジー」インタビュー調査を行った結果から抽出されたものである。また、調査対象者は自己申告で 500 字以上の漢字を学習済みであることを条件に選定されている。

会話は対象者了承の上で録音を行い、文字起こしデータから「漢字語彙学習ストラテジー」について述べている部分の抽出を行っている。インタビューは以下の項目に沿って行われた。

- ①授業で習った漢字語彙は、どのように覚えているか。
- ②漢字テストのために、どのような勉強をするか。
- ③授業以外で、漢字語彙の勉強のために行っていることはあるか。

次に、インタビューで抽出された 87 項目の漢字語彙学習ストラテジーを用いて、大学生以上の日本語母語話者 153 名と、非漢字圏出身の日本語学習者 155 名を対象に 5 件法での質問紙調査を行なった。すると、いくつかの質問項目において回答の度数分布に偏りが見られたため、回答の平均が 2.0 以下の項目、および、一つの項目に 50%以上回答が集まっている項目を削除し、因子分析を実施した。さらに、十分な因子負荷量を示さなかった項目と、共通性 0.3 未満の項目を削除するなどの処理を行った結果、最終的に、「日本語母語話者 41 項目」「日本語学習者 36 項目」の漢字語彙学習ストラテジーが抽出された。

しかし、渡部によると、今回の調査結果は具体的で詳細な漢字語彙学習ストラテジーリストを作成するに留まっており、「漢字語彙学習ストラテジー尺度」としては、まだ未完成の段階であると報告をしている。

以上の先行研究を踏まえ、本研究では、引き続き学習者の漢字語彙学習ストラテジーを把握するための調査項目を明らかにしたいと考えた。先行研究において指摘されてきた、「文脈や漢字語彙に関連するストラテジー調査項目数の少なさ」について問題改善を行い、タイにおいては未だあまり研究されていないタイ人学習者の「漢字語彙学習ストラテジー使用の現状」について調査を行なうことを目的とする。タイ人学習者による漢字語彙学習ストラテジー使用の現状と、日本語学習期間との関連性。そして、漢字語彙能力の成績上位群・成績下位群と、使用している漢字語彙学習ストラテジー関係を扱った実証研究は管見の限り見当たらない。これらを明らかにすることが本研究の意義だと考える。

2.3 漢字語彙能力測定テスト「筑波日本語テスト集（TTBJ）」

本節では、2.1.3においてウラムバヤル（2009）が言及していた、筑波大学留学生センターが提供している漢字語彙能力測定テスト「TTBJ」の概要と、本調査で使用したTTBJの「漢字語彙30」について述べる。

2.3.1 TTBJの概要

加納・魏（2014）によると、TTBJは、筑波大学留学生センターにおいて長年にわたって研究・開発されてきた様々な日本語のテストをWEB上で受験可能なシステムにしたものである。また、同センターは2010年に文部科学省から全国共同利用日本語・日本事情遠隔教育拠点事業の認定を受けeラーニング教材の開発・配信を行っており、本調査で使用するTTBJオンラインテストの一般公開は2013年から開始された。

TTBJには、様々な目的で開発された日本語のテストが存在しているが、大きく分けると①プレイスメントテストと、②学習前の事前診断テストの2つに分けることができる。以下、表4にてそれぞれの詳細を述べる。

表4 TTBJ テストの概要 加納・魏（2014）を参照に筆者作成

①プレースメントテスト	
A.知識を測るタイプの テスト	文法テスト
	漢字語彙テスト
	漢字語の読みテスト
	漢字語の書きテスト
SPOT	
B.運用力を測るタイプの テスト	漢字 SPOT
	音文法テスト（聴解による後続文予測問題）
	音語彙テスト（聴解による語彙問題）
	作文テスト（記述式の文作成問題）
②学習前の事前診断テスト	
	漢字力診断テスト初級
	漢字力診断テスト中級

（注）①のテストでは、原則として受験者に結果だけが通知される
②のテストでは、受験者へ詳しいフィードバックが行われる

また、TTBJ のオンラインテストは、個人利用と、団体利用があり一部のテストは団体利用でのみ申し込むことが可能である。今回調査に使用した「漢字語彙 30」も団体でのみ申し込みが可能なテストである。以下表 5 にて詳細を述べる。

表5 TTBJ オンラインテストの種類 加納・魏（2014）を参照に筆者作成

個人受験の場合	団体受験の場合
1 SPOT90i（90問、10分～15分）	1 SPOT90g（90問、10分～15分）
2 漢字 SPOT50（50問、10分～15分）	2 文法 90（90問、15分～30分）
3 漢字力診断初級（120問、30分～60分）	3 音声文法 30（30問、10分～15分）
4 漢字力診断中級（120問、30分～60分）	4 音声語彙 30（30問、10分～15分）
	5 漢字 SPOT50（50問、10分～15分）
	6 漢字読み書き 60（60問、20分）
	7 漢字語彙 30（30問、10分）

8 漢字力診断テスト初級 (120問、30分～60分)

9 漢字力診断テスト中級 (120問、30分～60分)

2.3.2 TTBJ「漢字語彙 30」オンラインテスト

「漢字語彙 30」とは、漢字語彙処理能力を測るテストであり、初級から中上級の問題まで合わせて 30 問が出題される。所要時間は 10 分間である。テストの構成としては、問題文と空欄に入る漢字語の選択肢が 4 肢選択で提示される形式となっている。

今回の調査では「漢字力診断」ではなく、「漢字語彙能力」についての検証を行うため、的確に対象者の漢字語彙能力を測定するためには、漢字語彙に特化した「漢字語彙 30」のテスト結果を用いるのが適当だと考えられる。

参考画像として、「漢字語彙 30」と同様の 4 肢選択形式で作成されている「漢字 SPOT」のテスト画面を以下図 1 に紹介する。

図 1 TTBJ 漢字 SPOT のテスト画面 (TTBJ の HP より)



「漢字語彙 30」で 30 問すべての解答を終えると、オンラインテストの実施者（筆者）が登録したメールアドレスへと各人の成績結果が逐一送られてくる設定となっている。予定人数の受

験が全て終了し、その旨を筑波大学留学生センターの担当者へ連絡すると、数日で成績が一覧になった Excel ファイルが返信されてくる。

本調査は 2016 年 11 月 28 日～12 月 2 日にかけて、対象者の学年別に DPU のコンピュータールームで 4 回に分けて実施した。また、テストを実施するに際して、「オンラインテストの結果は大学の成績には一切関係がなく、各自の漢字語彙能力を測定することが目的である」ということを事前に説明している。なお、当日は複数の授業欠席者がいたので、最終的にテストを受験した対象者は 92 名であった。

第3章 研究課題

本稿では、日本語学習者の「漢字語彙学習ストラテジー」という観点から調査を行い、より具体的なストラテジーの使用傾向と、漢字語彙学習の現状を把握することを目的とする。研究課題は以下の通りである。

3.1 研究課題1 学習期間の長さによる、漢字学習ストラテジー使用の特徴

学習期間による漢字語彙学習ストラテジー使用の相違点や特徴について検証を行う。

齊藤（2003）によると、学習者の学習期間が長くなるに従い、それに応じて自分自身で工夫した学習方法を使用するなど、複合的な漢字学習ストラテジー使用の傾向が見られると報告している。これについて、筆者が日常的に DPU の学習者を観察していて気付いたことが2つある。

1. 日本語の学習期間が短い学習者（主に DPU に入学後、初めて日本語を学んだ未習者）が、授業内の漢字テスト直前に漢字語彙を覚えようとしている際、黙々と紙に漢字語彙を繰り返し書きながら覚えている姿を頻繁に目にした。

2. その一方、学習期間が長い学習者（高校などで数年間学んできた既習者）は、漢字語彙が書かれたシートや印刷物を繰り返し見ながら覚えている姿を目にした。

双方の学習者に理由を聞いてみたところ、1の学習者は「紙に繰り返し書く」ことで最も効率よく覚えることができると述べていた。その一方、2の学習者からは「何度も書くのは面倒だから、目で見て覚えたほうが良い」「漢字をよく見た後、パーツに分解して頭の中で組み立てる」「イメージで関連付けて覚える」など多彩な回答が得られた。

以上のことを踏まえ、「学習期間が長い学習者」ほど、多種多様なストラテジーを複合的に活用しながら学習を進めている。その一方、「学習期間が短い学習者」は使用できるストラテジーの種類も少なく、繰り返し書くストラテジーを高頻度で使用しているのではないかと推測される。本研究での漢字語彙学習ストラテジー調査において、両者にどのような相違点や類似点があるのかを明らかにしたいと考える。

3.2 研究課題2 「成績上位群」と「成績下位群」が使用しているストラテジーの特徴

漢字語彙能力測定テストにおける「成績上位群」と「成績下位群」では双方が使用しているストラテジーに相違点があると推察される。また、漢字語彙学習に成功し、語彙運用能力が高い

と判断される成績上位群は、さまざまなストラテジーを複合的に駆使して学習を行っていると考えられる。

従来の研究では漢字能力の測定に様々な方法が使用されており、漢字能力テストに出題された問題数や形式などはそれぞれの機関によって異なっていた。そのため、的確に学習者の漢字能力を把握したうえで、成績上位群と成績下位群にグループを分けることができていたのかについては疑問が残る。

以上のことを踏まえ、本調査では「漢字語彙能力」についての検証をより適切に行うため、対象者の漢字語彙能力を正確に測定する必要があるだろう。そのためには、漢字語彙能力診断に特化した TTBJ の「漢字語彙 30」のテスト結果を用いるのが適当だと考えられる。

TTBJ でのテスト結果を基に学習者を成績上位群と下位群に分けて、双方の漢字語彙学習ストラテジー使用傾向や特徴、相関関係について検証を行うものとする。

第4章 調査方法

4.1 調査1 DPUでのインタビュー予備調査

DPUに所属しているタイ語を母語とするタイ人学習者、1年生から4年生の計12名に対して行った。JSL (Japanese as a Second Language) 環境下で学ぶ留学生や、日本語母語話者へのインタビュー調査で作成された渡部 (2015) の質問項目を参考にして、これを新たにJFL (Japanese as a Foreign Language) 環境向けの質問項目へ作成し直すための予備調査を行なった。

4.1.2 先行研究での調査項目

渡部が作成した、87項目の「漢字語彙学習ストラテジー」の質問調査票を参考にした。

しかし、ここでの質問項目はJSL環境で留学生が用いるストラテジー項目であり、「街中の漢字語彙の意味を注意して見る」「日本語の学術書を読む」といった項目などは、JFL環境における初級タイ人学習者の調査に適用するには問題があると考えられる。そのため、ストラテジー調査に用いる質問項目を再検証するためにも、事前に予備調査を行なう必要があると考えた。

4.1.3 予備調査対象者と調査期間

87項目の質問事項を再検証するため、2016年10月21日～10月25日にかけて、DPUの1年生から4年生の合計12名に対して予備調査を行った。調査対象者の詳細は表6の通りである。

表6 DPUでの予備調査対象者

対象者	学年	学習歴
S1	4年生	10年
S2	3年生	3年
S3	2年生	1年
S4	1年生	半年
S5	4年生	7年
S6	3年生	7年
S7	2年生	4年
S8	2年生	4年

S9	2年生	4年
S10	1年生	3年半
S11	1年生	3年半
S12	1年生	5年

4.1.4 予備調査の方法

漢字語彙を学習する際、実際に用いているストラテジーを明らかにすることを目的とし、対象者2人ずつに対して40分から1時間の半構造化インタビューを行なった。インタビューは以下の4項目に沿って行っている。

- ①漢字に対する意識
- ②漢字語彙をどうやって覚えているのか
- ③スマートフォンやタブレットの使用頻度（1日平均何時間位使用しているか）
- ④JFL環境のタイにおいて、なるべく漢字語彙に接するために行っている工夫

インタビューはタイ語と日本語の両方を併用しながら、対象者の許可を得た上でスマートフォンの録音機能（標準アプリケーション）を用いて録音を行っている。その後、インタビューの内容から、漢字語彙学習について述べているストラテジーの部分を抽出した。

4.1.5 予備調査の結果

12名のインタビュー調査結果から、合計55項目の漢字語彙学習ストラテジーが抽出された（添付資料1）。その内44項目は、渡部が作成した87項目の質問調査票に既出のものだった。それ以外で、新たに抽出されたストラテジー項目が11項目である。以下表7に詳細を記す。

表7 予備調査で新たに抽出された漢字語彙学習ストラテジー

漢字語彙学習ストラテジー	
1	繰り返し指で空書を行い、筆跡をイメージする
2	パソコンのOSやソフトウェアを日本語環境で使用する
3	漢字語彙を分解して、パーツとして覚える
4	音楽を聞きながら、歌詞の漢字や文字を頭の中で思い浮かべる
5	アニメやゲームに登場するキャラクターの名前から漢字語彙を覚える

-
- 6 写真を撮るような感覚で、漢字語彙を映像として頭に記憶する
 - 7 繰り返し読み方を口に出しながら覚える
 - 8 音楽を聞くなどして、リラックスして覚える
 - 9 漢字語彙の形からストーリーを作って覚える
 - 10 漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える
 - 11 読み方と、タイ語の訳語を交互に口に出しながら覚える
-

4.2 調査 2 DPU での本調査（質問紙調査と TTBJ を利用したオンラインテスト）

4.2.1 本調査の目的

学習期間の長さによる漢字語彙学習ストラテジー使用の特徴について把握する。次に、漢字語彙学習に成功していると思われる「成績上位群」、成功していないと思われる「成績下位群」の漢字語彙学習ストラテジー使用の特徴について把握する。

4.2.2 質問紙調査の対象者

DPU に所属している 1 年生から 4 年生の日本語専攻の学生 106 名。全員がタイ語を母語とするタイ人学習者である。

4.2.3 漢字語彙学習ストラテジーに関する質問紙調査項目の設定

DPU の予備調査で新たに抽出された 11 項目のストラテジー（表 5 参照）と、渡部の 87 項目を加えて「合計 98 項目」とした。しかし、渡部の 87 項目は「日本で学ぶ留学生」と「日本語母語話者」に対してインタビュー調査を行なったので、本稿の調査には相応しくない質問などが含まれていた。そこで、以下に述べる i ~ v の基準に従って内容の精査を行った。その結果を基にして、最終的に「合計 42 項目」を設定し、新たに 7 つのストラテジー分類を行っている。

- i. 日本の学習環境に起因すると判断し削除
- ii. 日本語能力に起因すると判断し削除
- iii. 大多数の対象者にとって一般的に使用されているため削除
- iv. 質問内容の類似により、複数の項目を 1 つの項目にまとめ直す
- v. その他の理由で削除や追加

まず、合計 98 項目から、「i.日本の学習環境に起因する」と判断したストラテジーの 16 項目を削除して「82 項目」とした。JFL 環境下のタイで学習する DPU の対象者にとって、街中の漢字語彙を注意して見る、テレビを字幕が出る設定にするといった項目は相応しくないと判断した。以下表 8 に詳細を記す。

表 8 i.日本の学習環境に起因すると判断して削除したもの 16 項目

5	街中の漢字語彙を注意して見る
17	テロップや字幕の漢字語彙の意味を調べる
20	街中の漢字語彙の意味を辞書で調べる
21	日本の映画を見るとき、日本語の字幕をつける
28	ニュースを見るとき、テロップを注意して見る
29	バラエティ番組を見るとき、テロップを注意して見る
43	日本語で書かれた新聞を読む
51	テレビを常に日本語の字幕が出る設定にする
54	日本語で書かれた日本の雑誌を読む
60	授業のノートはできるだけ漢字を使って書く
61	アニメを見るとき、日本語の字幕をつける
63	メモをするとき、できるだけ漢字を使って書く
68	教科書の文中の覚えたい漢字語彙に下線を引く
75	日本のドラマを見るとき、日本語の字幕を付ける
78	カラオケの歌詞の漢字を注意して見る
86	漢字検定を受験する

次に、「ii.日本語能力に起因する」と判断した 5 項目を削除して「77 項目」とした。調査対象者には、ゼロ初級から日本語を学習して 5 か月しか経っていない者もいるため、学術書や同音異義語といった項目は相応しくないと判断した。

以下表 9 に詳細を記す。

表9 ii.日本語能力に起因すると判断して削除したもの 5項目

27	日本語の学術書を読む
42	漢字語彙の読み方をその語彙に含まれる漢字の部首で推測する
70	新しい漢字語彙の対義語を一緒に覚える
71	新しい漢字語彙の同音異義語を一緒に覚える
73	漢字語彙の読み方をその語彙に含まれる漢字で推測する

さらに、「iii.対象者にとって一般的に使用されている」と判断した10項目を削除して「67項目」とした。対象者にとっては、漢字テストのために勉強することや、携帯電話のアプリやインターネットを用いて学習することは特別なことではないと判断した。以下表10に詳細を記す。

表10 iii.対象者にとって一般的に使用されていると判断して削除したもの 10項目

2	漢字学習用のアプリで漢字を調べる
6	手書きができる辞書を使って漢字や漢字語彙を調べる
9	漢字テストのために勉強する
30	電子辞書を使って漢字語彙を調べる
38	インターネットを使って漢字語彙の意味を調べる
64	ブラウザに翻訳(辞書)アドオンを設定して、インターネットで日本語の文章を読むとき漢字語彙の意味を調べる
72	新しい漢字語彙を使った文を作る
79	文章を書くとき、自分が選んだ漢字語彙が正しいかどうか、辞書で調べる
82	紙の辞書で漢字語彙を調べる
83	辞書で調べた漢字語彙に印をつけておいて、後で見直す

そして、「iv.質問内容が類似している」と判断したため、複数の項目を1つにまとめる作業を行った。内容が重複していると判断した20項目を削除して「47項目」とした。

例えば、「1たくさん漢字語彙を書いて練習する」「40テストで間違えた漢字をたくさん書いて練習する」「49新しい漢字を含む例文をたくさん書いて練習する」の3項目では、「たくさん漢字語彙を書くこと」が共通していると判断したので、類似の40、49は削除した。

同様に、「15漢字学習用のアプリで漢字語彙を覚える」「25漢字学習用のアプリで漢字のクイズをする」「48漢字学習用のパソコンソフトで漢字語彙を覚える」の3項目では、「漢字学習のアプリやソフト利用」が共通している。さらに、アプリで漢字のクイズをすることは、結果的に漢字語彙を覚えることに繋がっていると判断したので、類似の25.48は削除している。このようにして、複数の項目を一つにまとめる作業を行った。以下表11に詳細を記す。

表11 iv.質問内容の類似により、複数の項目を削除して1つにまとめ直したもの 20項目

*は予備調査にて抽出された、渡部の87項目に含まれない新規ストラテジーである
#は2つの内容をまとめて筆者が新たに作成したものである
1 たくさん漢字語彙を書いて練習する
40 テストで間違えた漢字をたくさん書いて練習する
49 新しい漢字を含む例文をたくさん書いて練習する
8 新しく覚えた漢字語彙のテストをする
50 新しく覚えた漢字語彙の復習をして、忘れていたら何回も書いて練習する
11 新しい漢字語彙リストを作る
12 漢字語彙リストを繰り返し見る
13 漢字語彙のフラッシュカードを作る
14 すきま時間にフラッシュカードで繰り返し練習する
66 テストの前にフラッシュカードで繰り返し練習する
15 漢字学習用のアプリで漢字語彙を覚える
25 漢字学習用のアプリで漢字のクイズをする
48 漢字学習用のパソコンソフトで漢字語彙を覚える
24 自分にとって重要な漢字語彙を覚える
47 自分にとって面白い漢字語彙を覚える
35 自分で漢字語彙のルールを見つける
67 イメージで漢字語彙を覚える

* 漢字語彙の形からストーリーを作って覚える
39 付箋に覚えたい漢字語彙を書いて自室やトイレの壁に貼り、繰り返し見る
58 漢字語彙を書いた紙を、実物に貼って覚える
18 新しく漢字を勉強したとき、その漢字を含む漢字語彙と一緒に覚える
32 複雑な漢字は漢字語彙として覚える
34 新しい漢字語彙を含む例文を覚える
59 新しい漢字語彙を勉強したとき、そこに含まれる漢字と一緒に覚える
69 同じカテゴリーの漢字語彙と一緒に覚える
52 日本人の名前で漢字を覚える
* アニメやゲームに登場するキャラクターの名前から漢字語彙を覚える
76 日本語でテレビゲームをする
77 日本のテレビゲームをしながら、分からない漢字語彙を辞書で調べる
10 友達と漢字についてのクイズを出し合う
45 友達と漢字語彙の成績を競い合う
他の人と協力して一緒に練習する
62 ドラマやアニメの中に登場した看板やポスターなどの漢字語彙を注意して見る
65 アニメやドラマのタイトルに使われている漢字語彙を覚える
ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える

最後に、「v.その他の理由」により5項目を削除して、「合計42項目」とした。理由は下記に述べているとおりである。以下表12に詳細を記す。

表12 v.その他の理由により、削除したもの 5項目

22 漢字学習のスケジュールを立てる
55 決まった日に漢字を勉強する (予備調査において、この類の回答が全く抽出されなかったため削除)
37 日本語で文章を書くとき、できるだけ知っている漢字語彙を使うようにする (ゼロ初級から学習を始めて、5か月しか経っていない初級学習者にとって、文章

を書く機会はあまり存在しないため削除)

87 間違いを恐れずに漢字を使うよう自分を励ます

(予備調査において、この類の回答が全く抽出されなかったため削除)

* パソコンの OS やソフトウェアを日本語環境で使用する

(対象者がパソコンを日本で購入したので、必然的に日本語環境になった。他の学習者にはあてはまらないので削除)

7つのカテゴリ分類の名称は、渡部（2015）が行った日本語母語話者と、非漢字圏出身の日本語学習者への因子分析での因子名を参考にしながら、新たに筆者が命名を行った。

①文脈は、「日本語で日本の漫画を読む」「日本語で書かれたニュースをインターネットで読む」「日本語の歌の歌詞を読む」など、自然な文脈に接するストラテジー分類なので「文脈」と命名した。

②情意は、「どれが自分にとって重要な漢字語彙かを判断する」「音楽を聞くなどして、リラックスして覚える」「漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える」など、心理的・情緒的なストラテジー分類なので、「情緒」と命名した。

③反復は、「漢字語彙リストを繰り返し見る」「心の中で繰り返し読み方を唱える」「繰り返し指で空書を行い、筆跡をイメージする」など、機械的な繰り返しや反復を伴うストラテジー分類なので、「反復」と命名した。

④理解・記憶補償は、「漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の意味で推測する」「前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する」「写真を撮るような感覚で、漢字語彙を映像として頭に記憶する」など、推測を行いながら理解を促す、記憶の定着を図るといったストラテジー分類なので、「理解・記憶補償」と命名した。

⑤関連付けは、「自分で漢字語彙のルールを見つける」「同じカテゴリの漢字語彙を一緒に覚える」「音楽を聞きながら、歌詞の漢字や文字を頭の中で思い浮かべる」など、漢字語彙を別の漢字語彙と結びつけたり、音楽の歌詞と文字を頭の中で関連付けるといったストラテジー分類なので、「関連付け」と命名した。

⑥積極的接触は、「スマートフォンの言語環境を日本語に設定する」「付箋に覚えたい漢字語彙を書いて自室やトイレの壁に貼り、繰り返し見る」「SNSの記事を日本語で書く」など、日

本語の少ない JFL 環境下において積極的に日本語に接触しようとする戦略分類なので、「積極的接触」と命名した。

⑦学習管理・協力は、「友達と漢字語彙の勉強方法についての情報を交換する」「本やインターネットで漢字の勉強方法を探す」「漢字語彙について、日本人の友達に質問する」など、他者への協力依頼や協働作業、自身の学習状況を管理するといった戦略分類なので、「学習管理・協力」と命名した。以下表 13 にて調査項目³を記す。

表 13 調査に用いた漢字語彙学習戦略42項目

カテゴリー分類	漢字語彙学習戦略
①文脈 6項目	1 日本語で日本の漫画を読む
	2 日本語の歌の歌詞を読む
	3 日本語の小説を読む
	4 日本語で書かれたニュースをインターネットで読む
	5 日本人が書いたブログを読む
	6 日本語でテレビゲームをする
②情意 6項目	7 よく使う漢字語彙の意味を覚える
	8 よく使う漢字語彙の読み方を覚える
	9 自分にとって重要な漢字語彙を覚える
	10 どれが自分にとって重要な漢字語彙かを判断する
	11* 音楽を聞くなどして、リラックスして覚える
	12* 漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える
③反復 6項目	13 漢字語彙リストを繰り返し見る
	14 心の中で繰り返し読み方を唱える

³ 「漢字学習」と「漢字語彙学習」には密接な繋がりがある。そのため、12、29、39の質問項目では「漢字語彙」ではなく、「漢字」を使用したほうが回答者にイメージが湧きやすいと判断した。また、「漢字語彙」という言葉が含まれていない質問項目は、調査実施時に「漢字語彙学習戦略」の調査であることを事前説明するため、必要ないと判断した。

	15 たくさん漢字語彙を書いて練習する。
	16 新しく覚えた漢字語彙の復習をして、忘れていたら何回も書いて練習する
	17* 繰り返し指で空書を行い、筆跡をイメージする
	18* 繰り返し読み方を口に出しながら覚える
④理解・記憶補償 6項目	19 漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の意味で推測する
	20 漢字学習用のアプリで漢字語彙を覚える
	21 前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する
	22 漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の部首で推測する
	23* 写真を撮るような感覚で、漢字語彙を映像として頭に記憶する
	24 漢字語彙の中で漢字の音読み・訓読みを覚える
⑤関連付け 6項目	25 自分で漢字語彙のルールを見つける
	26 漢字語彙と一緒に読み方を書いて覚える
	27 同じカテゴリーの漢字語彙を一緒に覚える
	28* 漢字語彙を分解して、パーツとして覚える
	29* 音楽を聞きながら、歌詞の漢字や文字を頭の中で思い浮かべる
	30* 読み方と、タイ語の訳語を交互に口に出しながら覚える
⑥積極的接触 6項目	31 スマートフォンの言語環境を日本語に設定する
	32 すきま時間にフラッシュカードで繰り返し練習する
	33 ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える
	34 付箋に覚えたい漢字語彙を書いて自室やトイレの壁に貼り、繰り返し見る
	35 日本人の名前から漢字語彙を覚える
	36 SNS の記事を日本語で書く
⑦学習管理・協力 6項目	37 友達と漢字語彙の勉強方法についての情報を交換する
	38 おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ
	39 本やインターネットで漢字の勉強方法を探す

	40 漢字語彙について、日本人の友達に質問する
	41 漢字語彙について、先生に質問する
	42 他の人と協力して一緒に練習する

(注) *の項目は、DPUの予備調査にて抽出された、渡部の87項目に含まれない新規ストラテジーである

質問紙調査は2016年11月25日～11月30日にかけてDPUの授業内にて行なっている。質問項目はすべてタイ語に翻訳したものをを用いて、以下の4段階評定⁴にて調査を行なった（添付資料2）

- 4-いつも使用している
- 3-よく使用している
- 2-ときどき使用している
- 1-全然使用していない

4.2.4 質問紙調査票の信頼性の検討

4.2.3で作成された、漢字語彙学習ストラテジー調査票（添付資料2参照）について、尺度の信頼性の検討を行うため、クロンバックの α 信頼係数⁵を算出した。以下表14にて詳細を記す。データの分析には、統計ソフトSPSS ver.24を使用した。分析の結果 α 係数は、0.89という高い値が得られたため、信頼性は十分にあると考えられる。

表14 質問調査票の信頼性

α 係数	項目数
0.89	42

⁴ 青木・井邑（2012）では、4件法と5件法の違いについて α 係数による信頼性の検証を行っている。その結果、4件法でも5件法でもほぼ同じ α 係数を得ることができた。そのため、質問紙調査の評定カテゴリー数は、被験者にとって負担が少ない4件法が望ましいと述べている。本研究ではこの指摘を基に4件法を採用した。

⁵ 小塩（2012：14）によると、 α 係数は信頼性の検討方法の一つである。0から1の数値で表され、1に近いほど内的整合性が高いと判断できる。

第5章 調査結果

TTBJのテストを受験し、なおかつ、漢字語彙学習ストラテジーの質問紙調査でも有効な回答を得ることができた最終的な対象者は88名だった。

5.1では、学習期間と漢字学習ストラテジー使用との関連について述べる。

5.2では、88名の対象者全体における漢字語彙学習ストラテジー使用頻度について述べる。

5.3では、88名を対象者をTTBJの成績結果から成績上位群と成績下位群とに分け、それぞれのグループにおける漢字語彙学習ストラテジー使用について述べる。

5.1 学習期間の長さによる、漢字語彙学習ストラテジー使用傾向の特徴

対象者は現在DPUで日本語を学んでいる学習者であり、学習期間が1年から10年までの88名である。以下表15にて詳細を述べる。

表15 調査対象者の内訳

学習期間	人数
1年	9名
2年	11名
3年	10名
4年	22名
5年	20名
6年	6名
7年	6名
8年～10年	4名
	合計 88名

次に、これらの学習者を1-2年（20名）、3-4年（32名）、5-6年（26名）、7年以上（10名）の4つのグループに分けて、学習期間ごとの漢字学習ストラテジー使用頻度の平均値の抽出を行った。以下表16に詳細を記す。

表 16 学習期間別における漢字語彙学習ストラテジー使用の平均値と使用頻度順位

順位	1-2年（20名）			3-4年（32名）			5-6年（26名）			7年以上（10名）		
	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差
1	42	3.20	0.77	9	3.56	0.56	9	3.27	0.60	9	3.90	0.32
2	23	3.10	0.55	23	3.31	0.59	42	3.19	0.90	2	3.70	0.68
3	9	3.10	0.72	42	3.22	0.87	23	3.19	0.63	30	3.50	0.97
4	24	3.05	0.76	30	3.19	0.86	30	3.15	0.83	42	3.40	0.84
5	30	3.00	0.92	24	3.16	0.77	2	3.04	0.66	23	3.40	0.52
6	11	2.90	0.85	26	3.13	0.79	26	2.92	1.06	37	3.30	0.82
7	2	2.80	0.70	11	3.13	0.91	39	2.88	0.82	32	3.30	0.82
8	37	2.75	0.85	16	3.09	1.00	11	2.88	0.95	16	3.30	1.06
9	20	2.75	0.85	8	3.09	0.89	20	2.81	1.10	26	3.20	1.03
10	10	2.65	0.81	2	3.03	0.60	32	2.81	0.85	24	3.20	0.79
11	38	2.65	0.88	32	2.91	0.89	24	2.77	0.82	11	3.20	1.14
12	8	2.65	0.88	25	2.88	0.98	33	2.73	0.78	20	3.20	1.03
13	26	2.60	0.82	38	2.84	0.85	8	2.73	0.96	39	3.10	1.10
14	33	2.55	0.69	10	2.84	0.77	10	2.69	0.97	8	3.10	1.20
15	32	2.55	0.76	39	2.81	0.78	37	2.69	0.88	40	3.00	1.05
16	39	2.50	0.83	37	2.81	0.78	7	2.65	1.02	14	3.00	0.94
17	14	2.50	0.89	20	2.75	0.88	38	2.65	0.98	35	2.90	0.74
18	16	2.45	1.10	12	2.72	0.92	25	2.62	1.02	25	2.90	0.88
19	4	2.45	0.95	33	2.72	0.85	4	2.62	0.90	4	2.90	0.74
20	35	2.40	0.88	17	2.69	0.86	35	2.54	0.91	15	2.80	1.32
21	25	2.40	1.14	14	2.66	0.97	14	2.54	1.14	17	2.70	0.95
22	3	2.40	0.75	40	2.63	1.16	16	2.50	1.21	41	2.60	1.27
23	18	2.30	0.92	35	2.59	0.95	17	2.46	0.91	38	2.60	0.84
24	17	2.30	1.03	3	2.53	0.57	18	2.42	0.70	10	2.60	0.84
25	27	2.25	1.07	41	2.53	1.08	3	2.42	0.81	34	2.50	0.97
26	7	2.25	0.85	4	2.53	0.72	21	2.35	0.94	6	2.50	1.08
27	12	2.20	0.89	7	2.47	0.80	12	2.31	1.12	5	2.50	0.71
28	40	2.20	1.11	6	2.44	1.05	5	2.31	0.79	12	2.50	1.08
29	21	2.20	0.83	21	2.38	0.87	19	2.23	0.91	27	2.40	1.17
30	6	2.10	0.91	19	2.34	0.83	40	2.23	1.11	3	2.40	0.52
31	31	2.10	0.64	29	2.25	1.11	29	2.15	1.19	33	2.30	1.16
32	41	2.10	1.07	5	2.25	0.62	27	2.08	0.89	18	2.30	0.95

33	29	2.10	0.97	31	2.13	0.91	41	2.08	1.26	1	2.30	1.06
34	5	2.00	1.03	18	2.06	0.76	1	2.08	0.89	7	2.20	0.92
35	19	1.95	0.76	27	2.00	0.80	6	2.04	1.00	22	2.10	0.57
36	28	1.80	1.15	22	1.84	0.81	34	2.00	0.94	13	2.10	0.88
37	13	1.80	0.77	13	1.84	0.72	31	1.96	0.66	31	2.00	1.05
38	22	1.75	0.72	28	1.81	0.90	28	1.92	1.09	19	2.00	1.05
39	34	1.70	0.87	34	1.78	0.71	22	1.88	0.91	36	1.90	1.20
40	15	1.50	0.51	1	1.78	0.75	13	1.77	0.95	29	1.90	1.45
41	1	1.40	0.68	15	1.78	0.75	15	1.73	0.92	21	1.90	0.74
42	36	1.20	0.41	36	1.44	0.67	36	1.58	0.99	28	1.70	1.06

- (注) ・使用頻度平均値の上位5位、下位5位、中位19位～24位について二重線にて区分けをしている
・5.1.1以後に言及する複数の項目は塗りつぶしを行っている
・学習期間が半年の場合は1年として、1.5年の場合は2年として繰り上げて分類を行っている
・調査に用いた調査票は添付資料2に掲載

5.1.1 学習期間別における、使用頻度上位の特徴

まず、使用頻度上位5位までの特徴について述べる。ここでは、以下に述べる4項目がすべての学習期間において共通して抽出されており、どの期間の学習者にとっても高い割合で使用されていることが明らかになった。

項目9「よく使う漢字語彙の意味を覚える（情意カテゴリー）」

項目23「よく使う漢字語彙の読み方を覚える（情意カテゴリー）」

項目30「漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える（情意カテゴリー）」

項目42「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ（学習管理・協力カテゴリー）」

学習期間の長さについて検証を行った先行研究では、学習期間の長さに関わりなく使用割合が変化しない普遍的な漢字学習ストラテジーとして、「反復すること」「物的リソースを使用する」の2つを「一般的なストラテジー」として報告されている（齊藤2003）。

本研究の上位5位までの共通項目において、「物的リソースを使用する」ストラテジーは、項目42「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ」が抽出された。

「反復すること」については、項目24「心の中で繰り返し読み方を唱える（反復カテゴリー）」が、1-2年では4位、3-4年では5位に抽出されており、学習期間が短い対象者にとって高頻度で使用されている状況がうかがえる。続いて、5-6年では11位、7年以上では10位に抽

出されている。このことから、学習期間が長くなるに連れて「反復すること」の使用頻度は徐々に低下していくが、ある一定の割合で使用され続ける普遍的なストラテジーだと考えられる。

その一方、多数の先行研究で報告されていた、最も使用頻度の高い「繰り返し書いて覚える」ストラテジーだが、本研究においては、項目 10「たくさん漢字語彙を書いて練習する（反復カテゴリ）」は 1-2 年は 10 位、3-4 年と 5-6 年は 14 位、7 年以上では 24 位という結果にとどまっている。この結果は、前述した項目 24「心の中で繰り返し読み方を唱える」よりも全ての期間において使用頻度が低い。

以上のことから、学習者は反復カテゴリの「心の中で繰り返し読み方を唱える」ストラテジーを一定の割合で使用しながら漢字語彙を定着させているが、「手を使って繰り返し書く」ストラテジーは、先行研究で報告されているほど多用されておらず、期間が長くなるに従って使用頻度も低下していることが明らかになった。

次に、平均値が 3.00 を上回っていたストラテジーについて述べる。

4 段階評定での調査のため、平均値が 3.00 以上の項目は学習者が「頻繁に使用している」と解釈することができるだろう。一方で、2.50 以下の項目に関しては「あまり使用されていない」、2.00 以下については「ほぼ使用していない」と解釈するものとする。

1-2 年では上位 5 項目、3-4 年では上位 10 項目、5-6 年では上位 5 項目、7 年以上では上位 16 項目が 3.00 を上回っていた。以下、表 17 に詳細を記す。

表 17 平均値 3.00 を上回っていたストラテジーの出現項目数

ストラテジー分類	1-2 年		3-4 年		5-6 年		7 年以上
	項目数		項目数		項目数		項目数
①文脈	0		1		0		1
②情意	3		5		4		6
③反復	1		1		0		1
④理解・記憶補償	0		1		0		3
⑤関連付け	0		1		0		2
⑥積極的接触	0		0		0		1
⑦学習管理・協力	1		1		1		2
合計	5		10		5		16

表 17 の値より、7年以上の学習者が最も多様なストラテジーを使用しながら漢字語彙学習を進めている現状が明らかになった。一方で、1-2年の学習者と、5-6年の学習者が5項目と同数であるが、1-2年の学習者にのみ「反復カテゴリー」のストラテジーが抽出されている。

また、3-4年では10項目が3.00以上に抽出されるという結果が出ている。学習者には、「情意カテゴリー」のストラテジーが最も使用されているが、それ以外のストラテジーもバランス良く使用している状況がうかがえる。このことから、「学習期間が短い学習者は使用ストラテジーの種類も少ない」「学習期間が長くなるに連れてストラテジーの種類も増える」とは一概に述べることができないと推察される。

5.1.2 学習期間別における、使用頻度下位の特徴

次いで、使用頻度下位5位までの特徴について述べる。ここでは、項目36「日本語の小説を読む（積極的接触カテゴリー）」がすべての学習期間において共通して抽出されており、どの対象者においてもほとんど使用されていないことが明らかになった。

また、項目15「日本人が書いたブログを読む（文脈カテゴリー）」が、1-2年、3-4年、5-6年の学習期間では共通して下位5位に抽出されているのに対して、7年以上では20位に抽出されている。

さらに、項目34「SNSの記事を日本語で書く（積極的接触カテゴリー）」が、1-2年、3-4年では39位だったのに対して、5-6年では36位、7年以上では25位と学習期間が長くなるに連れて使用順位が上昇している。このことから、学習期間が長くなるにつれて、学習者は「積極的」に、「生の日本語の文脈」に接している姿がうかがえる。

一方で、項目21「他の人と協力して一緒に練習する（学習管理・協力カテゴリー）」が1-2年、3-4年では29位、5-6年では26位に抽出されており、このストラテジーが比較的使用されていることがうかがえる。しかし、7年以上では41位と低い順位に抽出されている。

今回行った調査のフェイスシートには、「日本人の友達がいるか」という質問項目が設定されており、88名中41名が「いる」と回答をしていた。7年以上の学習者では、合計10名中6名が「いる」と回答をしている。しかしながら、7年以上の使用頻度最下位が、項目28「漢字語彙について、日本人の友達に質問する（学習管理・協力カテゴリー）」が抽出されたことから、学習期間が長くなると他者と協力して学習する機会が減少し、代わりに自分一人で漢字

語彙を学習する傾向が高くなるのではないかと考えられる。

次に、平均値が 2.00 を下回ったストラテジーについて述べる。

1-2年では下位 8 項目、3-4 年では下位 7 項目、5-6 年では下位 6 項目、7 年以上では下位 4 項目が 2.00 を下回っていた。以下、表 18 に詳細を記す。

表 18 平均値 2.00 を下回っていたストラテジーの出現項目数

ストラテジー分類	1-2 年		3-4 年		5-6 年		7 年以上
	項目数		項目数		項目数		項目数
①文脈	4		4		3		2
②情意	0		0		0		0
③反復	0		0		1		0
④理解・記憶補償	0		0		0		0
⑤関連付け	1		0		0		0
⑥積極的接触	2		2		1		0
⑦学習管理・協力	1		1		1		2
合計	8		7		6		4

表 18 の値より、各期間に共通して最も使用されていないストラテジーは「文脈カテゴリー」だということが明らかになった。特に学習期間が 1 年から 4 年までの学習者にとっては 4 項目が抽出されており、使用頻度が大変低いという状況がうかがえる。また、「文脈カテゴリー」と「積極的接触カテゴリー」のストラテジーは、学習期間が長くなるにつれて、その項目数が減少していく。つまり、期間の長い学習者ほど「文脈」に対して「積極的に接触」するようにストラテジー利用が変化していくということが明らかになった。

5.1.3 学習期間別における、使用頻度中位 19 位～24 位についての特徴

最後に、使用頻度中位 19 位～24 位についての特徴について述べる。ここでは、項目 17「繰り返し指で空書を行い、筆跡をイメージする（反復カテゴリー）」がすべての学習期間において共通して抽出されており、どの対象者においても平均的に使用されていることが明らかになった。

5.2 対象者 88 名全体のストラテジー使用頻度の結果

5.2.1 88 名全体の上位 15 項目

本節では対象者 88 名全体のストラテジー使用頻度を上位順から以下表 19 にて述べる。また、今回の調査では以下の 4 段階評定において回答の選択を求める調査を行なっている

4—いつも使用している 2—ときどき使用している

3—よく使用している 1—全然使用していない

4 段階評定での調査のため、平均値が 3.00 以上の項目は学習者が「頻繁に使用している」と解釈することができるだろう。一方で、2.50 以下の項目に関しては「あまり使用されていない」、2.00 以下については「全然使用していない」と解釈するものとする。

表 19 対象者 88 名全体のストラテジー使用頻度・上位 15 項目

順位	ストラテジー項目	分類	平均値 (標準偏差)
1	9 よく使う漢字語彙の意味を覚える	②情意	3.41 (0.64)
2	23 よく使う漢字語彙の読み方を覚える	②情意	3.24 (0.59)
3	42 おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ	⑦学習管理・協力	3.23 (0.84)
4	30 漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える	②情意	3.17 (0.87)
5	2 自分にとって重要な漢字語彙を覚える	②情意	3.06 (0.68)
6	24 心の中で繰り返し読み方を唱える	③反復	3.02 (0.79)
7	11 前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する	④理解・記憶補償	3.01 (0.93)
8	26 漢字語彙と一緒に読み方を書いて覚える	⑤関連付け	2.95 (0.92)
9	8 日本語の歌の歌詞を読む	①文脈	2.89 (0.95)
10	32 漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の部首で推測する	④理解・記憶補償	2.84 (0.86)
11	37 どれが自分にとって重要な漢字語彙かを判断する	②情意	2.82 (0.84)
12	20 ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える	⑥積極的接触	2.82 (0.95)
13	16 音楽を聞くなどして、リラックスして覚える	②情意	2.80 (1.13)
14	39 漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の意味で推測する	④理解・記憶補償	2.80 (0.85)
15	10 たくさん漢字語彙を書いて練習する	③反復	2.73 (0.84)

上位5位までの項目において、「情意カテゴリー」のストラテジーが4項目と多く含まれている。このことから、DPUの学習者に最も使用されているストラテジーは「情意カテゴリー」であることが分かった。また、今回の調査では「反復カテゴリー」のストラテジーが上位15項目中で、2項目しか抽出されなかった。このことから、学習者は先行研究で数多く報告されていた「何度も繰り返して記憶する」方法を使用するよりも、3位「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ」、4位「漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える」などといった、学習環境や自身の学習教材も管理しながら漢字を学習する傾向が高いことが明らかになった。

5.2.2 88名全体の下位15項目

次に表20にて、ストラテジーの使用頻度を最下位42位から順に述べる。

表20 対象者88名全体のストラテジー使用頻度・下位15項目

順位	ストラテジー項目	分類	平均値 (標準偏差)
42	36 日本語の小説を読む	①文脈	1.48 (0.82)
41	15 日本人が書いたブログを読む	①文脈	1.82 (0.90)
40	28 漢字語彙について、日本人の友達に質問する	⑦学習管理・協力	1.83 (1.02)
39	13 すきま時間にフラッシュカードで繰り返し練習する	⑥積極的接触	1.84 (0.86)
38	1 日本語で日本のマンガを読む	①文脈	1.84 (0.82)
37	22 日本語で書かれたニュースをインターネットで読む	①文脈	1.86 (0.79)
36	34 SNSの記事を日本語で書く	⑥積極的接触	1.91 (0.87)
35	31 繰り返し読み方を口に出しながら覚える	③反復	2.06 (0.79)
34	27 日本人の名前から漢字語彙を覚える	⑥積極的接触	2.13 (0.93)
33	29 日本語でテレビゲームをする	①文脈	2.15 (1.13)
32	19 自分で漢字語彙のルールを見つける	⑤関連付け	2.18 (0.87)
31	5 漢字語彙を分解して、パーツとして覚える	⑤関連付け	2.24 (0.79)
30	6 スマートフォンの言語環境を日本語に設定する	⑥積極的接触	2.25 (0.81)
29	18 漢字語彙の中で漢字の音読み・訓読みを覚える	④理解・記憶補償	2.25 (1.01)
28	21 他の人と協力して一緒に練習する	⑦学習管理・協力	2.27 (0.87)

使用頻度下位 10 位において、「文脈カテゴリー」に関連するものが 5 項目と、「積極的接触カテゴリー」に関連するものが 3 項目抽出された。このことから、調査対象者は小説やマンガ、ニュースやブログといった実際に日本語で書かれた一般向けの文章に対して「積極的に接する」ことがあまりなく、同時に「文脈カテゴリー」のストラテジー使用頻度が低いことが明らかになった。また、「フラッシュカードを利用する」「繰り返し読み方を口に出しながら覚える」の項目は、タイ人学習者に対して漢字学習ストラテジー調査を行なった、ソムチャイ (2008) の先行研究で報告されていた結果と同様に低い使用頻度となっていた。

5.2.3 88 名全体の漢字語彙学習ストラテジー分類に関わる基礎統計量と相関係数

この節では、漢字語彙学習ストラテジーの 7 つのカテゴリー間に相関関係があるのかを検討するため、ピアソンの積率相関係数を算出した。以下表 21 に詳細を記す。

表 21 88 名全体の漢字語彙学習ストラテジー分類に関する相関係数

ストラテジーの カテゴリー分類	平均 値	標準 偏差	相関係数						
			文脈	情意	反復	理解・ 記憶補償	関連付け	積極的接触	学習管理・ 協力
文脈	2.01	0.61	1						
情意	3.08	0.48	.353**	1					
反復	2.59	0.50	0.18	.451**	1				
理解・記憶補償	2.70	0.56	.337**	.532**	.478**	1			
関連付け	2.49	0.52	.313**	.598**	.642**	.750**	1		
積極的接触	2.21	0.49	.477**	.415**	0.18	.420**	.367**	1	
学習管理・協力	2.49	0.53	.386**	.450**	.528**	.525**	.508**	.423**	1

(注) 最も相関の高い項目と、相関が観察されなかった項目は塗りつぶしを行っている ** $p < .01$

表 20 より、1%水準で有意に正の相関関係が観察された。最も高い相関関係がみられるのは「関連付けカテゴリー」と「理解・記憶補償カテゴリー」である ($r=.750^{**}$)。次いで、「関連付けカテゴリー」と「反復カテゴリー」 ($r=.642^{**}$)、「関連付けカテゴリー」と「情意カテゴリー」

リー」 ($r=.598^{**}$) が続く。相関の数値が高い上位 3 位に「関連付けカテゴリー」のストラテジーが抽出される結果となった。

以上より、学習者は漢字語彙のルールを見つけたり、音楽を聞きながら歌詞と漢字語彙を頭の中で結びつけるといった「関連付けカテゴリー」のストラテジーと、漢字語彙の意味推測や記憶の定着を図る「理解・記憶補償カテゴリー」のストラテジーを積極的に結び付けて使用している傾向が示唆される。また、「反復カテゴリー」に関連するストラテジーと、自分にとって重要な漢字語彙を判断したり、音楽を聞いてリラックスして覚えるといった「情意カテゴリー」のストラテジーとの関連性が強い傾向がうかがえる。

一方、相関がみられなかったストラテジーは「反復カテゴリー」と「文脈カテゴリー」、「反復カテゴリー」と「積極的接触カテゴリー」の 2 つであった。

機械的な繰り返しを伴う「反復カテゴリー」のストラテジーを好む学習者は、「文脈カテゴリー」や「積極的接触カテゴリー」のストラテジーとの関連性がほとんど認められていない ($r=.18$)。先行研究においては、漢字学習成功者は文脈の中で漢字を使用している傾向が高い (ウラムバヤル 2009) という指摘がされている。また、学習成功者は「覚えた漢字を使う」「メモなどを日本語で書く」「できるだけ日本語を読む」といった、既習漢字の保持と復習に繋がる努力や活動を教室外でも積極的に行っている (中鉢 2006) といった指摘もされていた。調査結果 5.1 では、学習期間が短い学習者ほど「文脈カテゴリー」のストラテジー使用頻度も低いことが明らかになっている。

以上のことから、「反復カテゴリー」のストラテジーを使用している学習者は、「成績上位群 (学習成功者)」が使用している「文脈カテゴリー」や「積極的接触カテゴリー」のストラテジーと関連性が低い「学習期間の短い、成績下位群 (学習不成功者)」達であると考えられる。

5.3 TTBJ のテスト結果を基にした、成績上位群と下位群が使用しているストラテジー

本節では学習者を成績上位群と成績下位群に分け、双方の対象者が使用している漢字語彙学習ストラテジーと成績との関連性について検証を行う。そこで、対象者の漢字語彙能力を的確に測定するため、TTBJ の「漢字語彙 30」の試験結果を用いて検証を行った。

試験は 30 点満点で構成されている。今回の試験結果は平均点が 7.13 点。最高点は 16 点が 1 名。最低点は 0 点が 2 名だった。以下表 22 にて TTBJ のテスト結果と、成績の人数分布を記す。

表 22 TTBJ の結果と人数分布

成績 (合計 30 点)	人数 (人)	
16	1	} 成績上位群 合計 9 名
13	2	
12	1	
11	5	
<hr/>		
10	4	
9	9	
8	16	
7	17	
6	15	
5	4	
4	6	
<hr/>		
3	4	} 成績下位群 合計 8 名
2	2	
0	2	

(注) 成績上位群 9 名と、成績下位群 8 名について二重線にて区分けを行った

今回のテスト結果では対象者の最高得点が 16 点であった。そのため本稿では分析の便宜上⁶、11 点から 16 点までの 9 名を成績上位群とし、0 点から 3 点までの 8 名を成績下位群として分類を行うものとする。

5.3.1 TTBJ 成績上位群と下位群の使用ストラテジー (上位 15 項目)

それぞれが使用しているストラテジー使用頻度上位 15 項目の詳細を、以下表 23 にて述べる。

表 23 TTBJ 成績上位群と成績下位群のストラテジー使用頻度の結果 (上位 15 項目)

成績上位群				成績下位群			
順位	ストラテジー	分類	平均値 (標準偏差)	順位	ストラテジー	分類	平均値 (標準偏差)
1	9 よく使う漢字語彙の意味を覚える	②情意	3.67 (0.50)	1	9 よく使う漢字語彙の意味を覚える	②情意	3.50 (0.54)
2	23 よく使う漢字語彙の読み方を覚える	②情意	3.56 (0.53)	2	23 よく使う漢字語彙の読み方を覚える	②情意	3.13 (0.64)

⁶ 30 点満点の、11~16 点を成績上位群と捉えるには問題が残るが、本稿では便宜上 DPU の上位群として検証を行うものとする。

3	8 日本語の歌の歌詞を読む	①文脈	3.56 (0.73)	3	24 心の中で繰り返し読み方を唱える	③反復	3.13 (0.84)
4	37 どれが自分にとって重要な漢字語彙かを判断する	②情意	3.33 (0.71)	4	2 自分にとって重要な漢字語彙を覚える	②情意	3.13 (0.64)
5	20 ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える	⑥積極的接触	3.33 (0.87)	5	16 音楽を聞くなどして、リラックスして覚える	②情意	3.00 (1.07)
6	16 音楽を聞くなどして、リラックスして覚える	②情意	3.33 (0.71)	6	20 ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える	⑥積極的接触	3.00 (0.93)
7	30 漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える	②情意	3.22 (0.83)	7	11 前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する	④理解・記憶補償	3.00 (0.93)
8	42 おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ	⑦学習管理・協力	3.22 (1.20)	8	30 漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える	②情意	3.00 (0.76)
9	11 前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する	④理解・記憶補償	3.22 (0.83)	9	37 どれが自分にとって重要な漢字語彙かを判断する	②情意	2.88 (0.84)
10	35 漢字語彙について、先生に質問する	⑦学習管理・協力	3.11 (0.60)	10	10 たくさん漢字語彙を書いて練習する	③反復	2.88 (0.84)
11	24 心の中で繰り返し読み方を唱える	③反復	3.11 (0.78)	11	8 日本語の歌の歌詞を読む	①文脈	2.88 (0.99)
12	10 たくさん漢字語彙を書いて練習する	③反復	3.11 (1.05)	12	38 新しく覚えた漢字語彙の復習をして忘れていたら何回も書いて練習する	③反復	2.88 (0.84)
13	4 漢字学習用のアプリで漢字語彙を覚える	④理解・記憶補償	3.11 (0.93)	13	4 漢字学習用のアプリで漢字語彙を覚える	④理解・記憶補償	2.75 (0.71)
14	14 本やインターネットで漢字の勉強方法を探す	⑦学習管理・協力	3.11 (1.05)	14	42 おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ	⑦学習管理・協力	2.63 (0.74)
15	39 漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の意味で推測する	④理解・記憶補償	3.00 (0.71)	15	33 同じカテゴリーの漢字語彙と一緒に覚える	⑤関連付け	2.63 (0.92)

成績上位群のストラテジー項目のうち、使用頻度平均が 3.00 以上を示したものは 19 項目であった。次いで、使用頻度平均が 10 位以内（同率 10 位を含む）の項目に注目すると、「情意カテゴリー」の項目を最も多用している状況がうかがえる。また、「日本語の歌の歌詞を読む」の「文脈カテゴリー」が 3 位に抽出されており、高頻度で使用されていることが明らかになった。

その他のストラテジーもバランスよく使用されているが、唯一「関連付けカテゴリー」の項目は全く抽出されなかった。また、成績下位群では 14 位に 1 項目しかみられなかった「学習管理・協力カテゴリー」のストラテジーが、成績上位群では 8 位、10 位、14 位と抽出されている。

一方、成績下位群のストラテジー項目のうち、使用頻度平均が 3.00 以上を示したものは 8 項目であった。これは成績上位群のストラテジー 19 項目の半分以下である。次いで、使用頻度平均が 10 位以内（同率 10 位を含む）の項目に注目すると、成績下位群が最も多用しているストラテジー項目も「情意カテゴリー」が最多であった。次に、成績上位群では 11、12 位（同率 10 位）に抽出されていた「反復カテゴリー」が、成績下位群では 3、10 位に抽出されており、より高い頻度で「反復カテゴリー」のストラテジーを使用している状況がうかがえる。

また、「学習管理・協力カテゴリー」といったメタ認知的ストラテジーは 10 位以内にまったく見られないなど、上位群とは異なる結果が得られた。

5.3.2 TTBJ 成績上位群と下位群の使用ストラテジー（下位 15 項目）

次いで、それぞれが使用しているストラテジー使用頻度下位 15 項目の詳細を以下表 24 にて述べる。

表 24 TTBJ 成績上位群と成績下位群のストラテジー使用頻度の結果（下位 15 項目）

成績上位群				成績下位群			
順位	ストラテジー項目	分類	平均値 (標準偏差)	順位	ストラテジー項目	分類	平均値 (標準偏差)
42	13 すきま時間にフラッシュカードで繰り返し練習する	⑥積極的接触	1.56 (0.53)	42	15 日本人が書いたブログを読む	①文脈	1.50 (0.54)
41	34 SNS の記事を日本語で書く	⑥積極的接触	1.67 (0.71)	41	36 日本語の小説を読む	①文脈	1.75 (1.17)
40	22 日本語で書かれたニュースをインターネットで読む	①文脈	1.78 (0.67)	40	22 日本語で書かれたニュースをインターネットで読む	①文脈	1.75 (0.71)
39	36 日本語の小説を読む	①文脈	1.89 (1.05)	39	13 すきま時間にフラッシュカードで繰り返し練習する	⑥積極的接触	1.75 (0.89)
38	28 漢字語彙について、日本人の友達に質問する	⑦学習管理・協力	1.89 (0.78)	38	28 漢字語彙について、日本人の友達に質問する	⑦学習管理・協力	1.88 (1.13)
37	27 日本人の名前から漢字語彙を覚える	⑥積極的接触	1.89 (0.78)	37	27 日本人の名前から漢字語彙を覚える	⑥積極的接触	1.88 (0.64)
36	31 繰り返し読み方を口に出しながら覚える	③反復	2.11 (0.78)	36	18 漢字語彙の中で漢字の音読み・訓読みを覚える	④理解・記憶補償	1.88 (0.64)
35	18 漢字語彙の中で漢字の音読み・訓読みを覚える	④理解・記憶補償	2.22 (0.97)	35	1 日本語で日本の漫画を読む	①文脈	1.88 (0.99)
34	12 読み方と、タイ語の訳語を交互に口に出しながら覚える	⑤関連付け	2.22 (0.83)	34	34 SNS の記事を日本語で書く	⑥積極的接触	2.00 (1.07)

33	5 漢字語彙を分解して、パーツとして覚える	⑤関連付け	2.33 (0.50)	33	5 漢字語彙を分解して、パーツとして覚える	⑤関連付け	2.25 (0.46)
32	41 付箋に覚えたい漢字語彙を書いて自室やトイレの壁に貼り繰り返し見る	⑥積極的接触	2.33 (1.12)	32	41 付箋に覚えたい漢字語彙を書いて自室やトイレの壁に貼り繰り返し見る	⑥積極的接触	2.25 (1.17)
31	15 日本人が書いたブログを読む	①文脈	2.33 (1.00)	31	40 音楽を聞きながら、歌詞の漢字や文字を頭の中で思い浮かべる	⑤関連付け	2.38 (1.19)
30	1 日本語で日本の漫画を読む	①文脈	2.33 (0.87)	30	39 漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の意味で推測する	④理解・記憶補償	2.38 (0.92)
29	6 スマートフォンの言語環境を日本語に設定する	⑥積極的接触	2.56 (1.24)	29	31 繰り返し読み方を口に出しながら覚える	③反復	2.38 (0.74)
28	3 漢字語彙リストを繰り返し見る	③反復	2.56 (0.53)	28	29 日本語でテレビゲームをする	①文脈	2.38 (1.30)

成績上位群のストラテジー項目のうち、使用頻度平均が 2.00 以下を示したものは 6 項目であった。次いで、使用頻度平均が下位から 10 位以内（同率 10 位を含む）の項目に注目すると、成績上位群においては「積極的接触カテゴリー」が 4 項目と、「文脈カテゴリー」が 4 項目抽出されている。

一方で、成績下位群のストラテジー項目のうち、使用頻度平均が 2.00 以下を示したものは 9 項目であった。使用頻度平均が下位から 10 位以内（同率 10 位を含む）の項目に注目すると、成績下位群においても、「積極的接触カテゴリー」が 4 項目、「文脈カテゴリー」が 4 項目抽出された。

双方ともに、「積極的接触カテゴリー」や「文脈カテゴリー」のストラテジー項目が数多く抽出されていることから、学習者は積極的に日本語に触れるストラテジーが少ないこと。そして、日本語の文脈を目にする機会も少ないことがうかがえる。また、今回の調査では双方ともに「情意カテゴリー」の項目は全く抽出されなかった。

第6章 考察

6.1 考察1「学習期間の長さによる、漢字学習ストラテジー使用の特徴」

本節では、以下の3つに分けて考察1を述べていく。

- i 6.1.1 学習期間の長さに関係しないと推察されるストラテジー
- ii 6.1.2 学習期間の長さに関係すると推察されるストラテジー
- iii 6.1.3 「何度も繰り返して記憶する」ストラテジー使用状況の変化

6.1.1 学習期間の長さに関係しないと推察されるストラテジー

日本語学習の期間が長くなることによる、漢字語彙学習ストラテジーの使用状況の変化について、使用頻度上位5位においては明らかな違いがみられなかった。

上位5位の特徴は、以下4項目が全ての学習期間において抽出されていることである。

項目42「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ」

項目23「よく使う漢字語彙の読み方を覚える」

項目9「よく使う漢字語彙の意味を覚える」

項目30「漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える」

したがって、これらの4項目は、齊藤（2003）で報告されている、学習期間の長さに関わりなく使用割合が変化しない普遍的な漢字学習ストラテジーである「一般的なストラテジー」だと言えるだろう。

6.1.2 学習期間の長さに関係すると推察されるストラテジー

使用頻度上位5位では明らかな特徴の違いがみられなかったが、下位5位では違いがあらわれた。以下、表25にそれぞれの詳細を記す。

表 25 学習期間別における漢字語彙学習ストラテジーの使用頻度順位（上位 5 位・下位 5 位）

順位	1-2 年（20 名）			3-4 年（32 名）			5-6 年（26 名）			7 年以上（10 名）		
	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差
1	42	3.20	0.77	9	3.56	0.56	9	3.27	0.60	9	3.90	0.32
2	23	3.10	0.55	23	3.31	0.59	42	3.19	0.90	2	3.70	0.68
3	9	3.10	0.72	42	3.22	0.87	23	3.19	0.63	30	3.50	0.97
4	24	3.05	0.76	30	3.19	0.86	30	3.15	0.83	42	3.40	0.84
5	30	3.00	0.92	24	3.16	0.77	2	3.04	0.66	23	3.40	0.52
.....
38	22	1.75	0.72	28	1.81	0.90	28	1.92	1.09	19	2.00	1.05
39	34	1.70	0.87	34	1.78	0.71	22	1.88	0.91	36	1.90	1.20
40	15	1.50	0.51	1	1.78	0.75	13	1.77	0.95	29	1.90	1.45
41	1	1.40	0.68	15	1.78	0.75	15	1.73	0.92	21	1.90	0.74
42	36	1.20	0.41	36	1.44	0.67	36	1.58	0.99	28	1.70	1.06

（注）上位 5 位内の共通項と、本節で言及している項目は塗りつぶしを行っている

1-2 年、3-4 年、5-6 年の学習期間では共通して最下位に抽出された項目 36「日本語の小説を読む」が、7 年以上では 39 位と少し上昇している。このことから学習期間が長くなるに従って、学習者は「生の日本語の文脈」に触れる機会が多くなっていることがうかがえる。

また、項目 36 に代わって、7 年以上の最下位 42 位に抽出されたストラテジーは、項目 28 の「漢字語彙について、日本人の友達に質問する」であった。この項目は 1-2 年、3-4 年、5-6 年の学習期間においては、26、29 位に見られており、ある程度の頻度で使用されているストラテジーだと考えられる。さらに、7 年以上の学習者では項目 21「他の人と協力して一緒に練習する」が 41 位に抽出されている。このことから、学習期間が長くなると他者と協力して練習する機会が減少し、代わりに自分一人で漢字語彙を学習する傾向が高くなっているものと考えられる。

この結果は、学習期間が長くなり語彙が増加したことや、スマートフォンのアプリなどで未習語彙を検索する方法を習得したことにより、自分だけで学習をすることができるようになったことが推察される。そのことから、他者と協力する必要性を感じなくなるのではないだろうか。また、学習期間が長くなるにつれて日本語の理解力も高くなり、学習者にとって興味のある日本のコンテンツや、日本語話者と接触する機会が増加した結果、日本語の文脈に触れる機会が促進されていることも考えられる。

6.1.3 「何度も繰り返す」ストラテジー使用状況の変化

本節では先行研究（大北 1995，中村 1997，齊藤 2003，中鉢 2006，ソムチャイ 2008，マテラ 2013）において、極めて使用頻度が高いと報告されている「何度も繰り返す」ストラテジーについて述べる。

まず、項目 24「心の中で繰り返し読み方を唱える」が、1-2年と 3-4年の学習者において 4位・5位の上位に抽出されており、学習期間の短い学習者が高頻度で使用している現状がうかがえる。

一方で、5-6年、7年以上ではそれぞれ 11位、10位での使用に留まっているため、学習期間が長くなるに従い使用頻度が低下しているといえるだろう。

これは、学習期間が長くなるにつれて「覚えるまで何度も書く」ストラテジーの使用頻度が下がり、他のストラテジー使用頻度が上がるという結果（谷口 2016：17）と同様である。学習期間が短い学習者は、何度も繰り返し読んだり書いたりしながら学習を進めている状況がうかがえる。

次に、学習期間が短い学習者は「何度も繰り返す」ストラテジーについて、「効果がある」と肯定的に捉え過ぎているため、それ以外に存在する多くのストラテジーに気付いていない可能性が考えられる。4.1の DPUにおけるインタビュー予備調査の際、多くの学習者は教師から「漢字は繰り返したくさん書くと覚えられる」という指導を受けたことがあると述べていた。また、学習歴が半年と最も短い学習者は、実際に繰り返し書いて覚えるために使用している学習ノートを筆者に見せながら、「繰り返し書く方法が一番良いと思う」と非常に「肯定的な意見」を語っていた。しかし、その他の具体的な漢字語彙学習ストラテジーの存在について質問すると、「あまり知らない」と述べるにとどまっている。

その一方で、高校から日本語を学び授業の成績も良い学習者は、繰り返し書くことに「否定的な意見」を述べていた。この対象者によると、「書くのは面倒くさいから、見て覚える」と語っている。ところが、「もし、本気で覚えたいときは、書いて覚えることもある」とも述べていた。

以上のことから、学習期間が長い学習者は既に複数のストラテジーを獲得しており、その時の状況や気分によって使用するストラテジーを「複数の中から適宜選択している」可能性が考えられる。しかし、学習期間が短い学習者は使用できるストラテジーの数も少なく、その他の

ストラテジーの存在を知らないために、ストラテジー使用の種類も偏ってしまうのではないだろうか。

これは、豊田（1995）が指摘している「漢字は学習者にとって重要な学習要素であるが、時間的制約等の理由からその大部分が学習者の自学自習に委ねられてきた」ことが大きな原因だと推察される。DPUにおいても、基本的に漢字語彙学習は学習者自身に任されているのが現状であり、漢字語彙学習ストラテジーそのものを学ぶ時間はほとんど存在していない。

そのため、学習者は自身で漢字語彙学習ストラテジーの模索をする必要があり、個々の努力によって「自分なりに工夫し」「自分にとって使いやすい」漢字語彙学習ストラテジーを獲得していくものと考えられる。その過程で、「漢字を繰り返し書く」反復カテゴリーのストラテジー使用頻度が低下していくのではないだろうか。さらに、現代では、パソコンやスマートフォンでのコミュニケーションが一般的になり、文字を書く機会が減少していることも要因の一つだと考えられる。

6.2 考察2「成績上位群」と「成績下位群」が使用しているストラテジーの特徴

本節では、以下の6つに分けて考察2を述べていく。

- i 6.2.1 成績結果に関係しないと考えられるストラテジー
- ii 6.2.2 両群のストラテジー使用の種類
- iii 6.2.3 「文脈カテゴリー」のストラテジー使用状況
- iv 6.2.4 「学習管理・協力カテゴリー」のストラテジー使用状況
- v 6.2.5 「反復カテゴリー」ストラテジーの使用状況
- vi 6.2.6 両群の特徴とまとめ

6.2.1 成績結果に関係しないと考えられるストラテジー

成績上位群と成績下位群ともに、最も使用されているストラテジーの1位は「よく使う漢字語彙の意味を覚える」（上位群平均 3.67、下位群平均 3.50）、2位には「よく使う漢字語彙の読み方を覚える」（上位群平均 3.56、下位群平均 3.13）が抽出された。このことから、この2つのストラテジーは成績に関係なく、両群の学習者に最も使用されている共通のストラテジーだと言えるだろう。

6.2.2 両群のストラテジー使用の種類

「成績上位群」と「成績下位群」では、使用している漢字語彙学習ストラテジーの種類に明らかな違いがみられた。以下表 26 に両群上位 10 位までの詳細を記す。

表 26 「成績上位群」と「成績下位群」が使用しているストラテジー上位 10 位

成績上位群				成績下位群			
順位	ストラテジー	分類	平均値	順位	ストラテジー	分類	平均値
1	9 よく使う漢字語彙の意味を覚える	②情意	3.67	1	9 よく使う漢字語彙の意味を覚える	②情意	3.50
2	23 よく使う漢字語彙の読み方を覚える	②情意	3.56	2	23 よく使う漢字語彙の読み方を覚える	②情意	3.13
3	8 日本語の歌の歌詞を読む	①文脈	3.56	3	24 心の中で繰り返し読み方を唱える	③反復	3.13
4	37 どれが自分にとって重要な漢字語彙かを判断する	②情意	3.33	4	2 自分にとって重要な漢字語彙を覚える	②情意	3.13
5	20 ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える	⑥積極的接触	3.33	5	16 音楽を聞くなどして、リラックスして覚える	②情意	3.00
6	16 音楽を聞くなどして、リラックスして覚える	②情意	3.33	6	20 ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える	⑥積極的接触	3.00
7	30 漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える	②情意	3.22	7	11 前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する	④理解・記憶補償	3.00
8	42 おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ	⑦学習管理・協力	3.22	8	30 漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える	②情意	3.00
9	11 前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する	④理解・記憶補償	3.22	9	37 どれが自分にとって重要な漢字語彙かを判断する	②情意	2.88
10	35 漢字語彙について、先生に質問する	⑦学習管理・協力	3.11	10	10 たくさん漢字語彙を書いて練習する	③反復	2.88

(注) 本節で言及している項目は塗りつぶしを行っている

成績上位群が用いているストラテジーは、使用頻度平均が 3.00 以上の数値は 19 項目あったのに対して、成績下位群では 3.00 以上の数値は 8 項目だけに留まっており、2 倍以上の差が存在する。

一方、成績上位群が用いているストラテジー使用頻度平均で、2.00 以下を示したものは 6 項目であった。それに対して、成績下位群で 2.00 以下を示したものは 9 項目だった。これらのことから、成績上位群のほうが、より多くのストラテジーを複数用いながら漢字語彙学習を進めている傾向があると考えられる。先行研究（齊藤 2003, 中鉢 2006）においても、成績上位群のほうが成績下位群よりも多様なストラテジーを使用していると報告されており、本研究の結果においても同様の結果が得られた。

6.2.3 「文脈カテゴリー」のストラテジー使用状況

次に、成績上位群は自ら積極的に日本語の文脈に接する努力をしている傾向がうかがえる。「文脈カテゴリー」のストラテジーである、「日本語の歌の歌詞を読む」（3位、平均3.56）が上位に抽出されており、授業内容とは直接関係がなくとも、積極的に漢字語彙や生の日本語の文脈に触れる活動を行っていることが推察される。

一方、成績下位群では「日本語の歌の歌詞を読む」が（11位、平均2.88）で観察されている。成績上位群ほどの高頻度ではないが、成績下位群の学習者も少なからず「文脈カテゴリー」のストラテジーを使用しながら学習を進めていることが明らかになった。

また、「音楽を聞くなどして、リラックスして覚える」が成績上位群6位、成績下位群5位と双方で高い順位に観察されている。このことから、音楽を聞くことでリラックスすることが可能になり、歌詞の内容に興味を持つことで生の文脈に触れる機会にも繋がっていると考えられる。その結果、漢字語彙の復習や新規語彙の獲得にかかわる活動へと続いているのではないだろうか。

6.2.4 「学習管理・協力カテゴリー」のストラテジー使用状況

成績上位群の使用頻度平均10位以内の項目に注目すると、メタ認知ストラテジーである「学習管理・協力カテゴリー」の項目が、「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ」（8位、平均3.22）、「漢字語彙について、先生に質問する」（10位、平均3.11）の2項目観察されている。

その一方で、成績下位群においては、「学習管理・協力カテゴリー」のストラテジーが全く抽出されない結果となった。最も上位の「学習管理・協力カテゴリー」のストラテジーは、「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ」が14位に初めて観察されるにとどまっていた。

このことから、成績上位群の学習者は、教室で与えられた教科書だけではなく自分にとって「より、おもしろい」教科書を探し求めている。さらに、「教師」というリソースを積極的に活用しながら学習を進めている傾向がうかがえる。このようなストラテジーの利用が、漢字語彙学習の成功へと深く関わっていると考えられるだろう。一方で、成績下位群も少なからず「学習管理・協力カテゴリー」のストラテジーを使用しているが、成績上位群ほどの頻度ではないことがわかった。

6.2.5 「反復カテゴリー」のストラテジー使用状況

成績下位群では漢字語彙学習のために、繰り返し書いたり読んだりする「反復カテゴリー」のストラテジーを多用していることがうかがえる。使用頻度平均が10位以内（同率10位を含む）の項目に注目すると、「心の中で繰り返し読み方を唱える」（3位、平均3.13）、「たくさん漢字語彙を書いて練習する」（10位、平均2.88）が観察されている。これは先行研究において報告されてきた、非漢字圏の日本語学習者が極めて高い頻度で使用する「何度も繰り返す」ストラテジーの結果と同じである。

一方で、成績上位群においては「心の中で繰り返し読み方を唱える」が11位（同率10位、平均3.11）、「たくさん漢字語彙を書いて練習する」が12位（同率10位、平均3.11）に抽出されている。このことから、成績上位群においても「何度も繰り返す」ストラテジーは使用されていることがうかがえる。しかし、先行研究で指摘されているような極めて高い使用頻度ではないことが明らかになった。以上の結果から、成績上位群に比べて成績下位群のほうが、「何度も繰り返す」ストラテジーの使用頻度が高いということが言えるであろう。

6.2.6 両群の特徴とまとめ

これらの結果を踏まえて、成績上位群と成績下位群では使用している漢字語彙学習ストラテジーに明らかな違いがあることが分かった。また、双方ともに「情意カテゴリー」のストラテジーである「よく使う漢字語彙の意味を覚える」が最も使用されていることが明らかになった。

成績上位群の特徴は、「日本語の歌の歌詞を読む」（3位）が上位に観察されたことから、授業以外でも積極的に文脈に触れ、自然と新規漢字語彙の獲得や復習を行っている環境にあることがうかがえる。さらに、「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ」（8位）、「漢字語彙について、先生に質問する」（10位）のように、自分の学習を管理しつつ、必要であれば他者に協力を求めながら学習を進めていることが明らかになった。

また、「ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える」（5位）、「前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する」（9位）のように、積極的に漢字語彙に触れながら、前後の文脈から理解できない漢字語彙を推測する活動を行っていることがわかる。こういった状況が、漢字語彙学習に対して正の影響を及ぼしているのだと考えられる。

一方で、成績下位群も「ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える」（6位）、「前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する」（7位）のように、漢字語彙に触れ、前後の文脈から漢字語彙を推測する活動を行っていることが明らかになった。

次に、「心の中で繰り返し読み方を唱える」が3位と高い順位に抽出されていることから、成績下位群の学習者は、上位群の学習者よりも漢字語彙を繰り返し反復しながら学習を進めている傾向が高いと考えられる。また、教師に協力を求めたり、おもしろそうな教科書を自分から選ぶことは少なく、黙々と繰り返し漢字語彙を覚えている姿がうかがえる。

第7章 本研究のまとめ

本研究はタイの大学で日本語を学ぶタイ人学習者 88 名を対象として、「漢字語彙学習」ストラテジーに関する質問紙調査を実施し、学習期間の長さによるストラテジー使用の違いと相関関係について分析を行った。さらに、学習者を成績上位群と成績下位群に分け、双方の漢字語彙学習ストラテジー使用の特徴について分析を行った。その結果、以下のようなことが明らかになった。

1. 漢字語彙学習に特化した新しいストラテジー尺度

JFL 環境下のタイで学ぶ日本語学習者へ向けた、新たな漢字語彙学習ストラテジーの質問調査項目の作成を行った。単漢字ではなく、文脈での漢字語彙に関する質問項目を数多く含んだ調査項目の設定が特徴である。さらに、先行研究で指摘されていた、SILL や SILK を利用した調査票では「記憶ストラテジー」の項目数が多く、「間接ストラテジー」の項目数が少ない問題についても、カテゴリー分類の項目数を揃えることで改善を行っている。

しかし、質問調査項目はこれが完成ではなく、今後もより適切な質問項目を検討していく必要性があると考えられる。

2. 学習者に最も使用されている「情意カテゴリー」のストラテジー

88 名全体の上位 5 位までの項目において、「情意カテゴリー」のストラテジーが 4 項目と多く含まれていた。このことから、DPU の学習者に最も使用されているストラテジーは「情意カテゴリー」であることが判明した。

また、従来 of 先行研究では「繰り返し書いて覚える」ストラテジーが最も使用されていると報告されていたが、本研究では全ての期間において「心の中で繰り返し読み方を唱える」ストラテジーの方がより上位に抽出された。このことから、学習者にとって「手」を使うストラテジーの使用が低下している傾向が示唆された。

さらに、学習期間が短い学習者ほど「反復カテゴリー」である、何度も繰り返すストラテジーを多用しているが、学習期間が長くなるに従って使用頻度が低下していることが明らかになった。

3. 学習期間に関係ない普遍的なストラテジーと、変化するストラテジー

学習期間が長くなることによる、漢字語彙学習ストラテジー使用状況の変化について、使用頻度上位5位においては明らかな違いがみられなかった。これらは、齊藤（2003）で報告されている、学習期間の長さに関わりなく使用割合が変化しない普遍的な漢字学習ストラテジーである「一般的なストラテジー」と言うことができるだろう。

しかし、下位5位では違いが観察されている。学習期間が長くなるに従い、学習者は日本語の小説を読むなどして「生の日本語の文脈」に触れる機会が増加している傾向がうかがえる。

また、学習期間が長くなると他者と協力して練習する機会が減少し、代わりに自分一人で漢字語彙を学習する傾向が示唆された。これは、学習期間が長くなったことにより、日本語の理解力や、語彙力が向上し、自分だけで漢字語彙学習を進めることが可能になったからだと考えられる。

4. 成績上位群の積極的な「文脈カテゴリー」のストラテジー使用

先行研究において、漢字学習成功者（漢字語彙テストの成績上位者）は「文脈の中で漢字を使用する」傾向がうかがえるが、文脈や語彙に関する調査項目が少ないために結果を一般化できていないと指摘されていた（ウラムバヤル 2009）。この問題について、本研究の結果では、成績上位群は成績下位群よりも「日本語の歌の歌詞を読む」といった「文脈カテゴリー」に関するストラテジーを積極的に使用していることが明らかになった。一方、成績下位群においても、成績上位群ほどの高頻度ではないが「文脈」ストラテジーを使用しながら学習を進めていることが明らかになった。

また、成績上位群と成績下位群ともに、最も使用されているストラテジーは「よく使う漢字語彙の意味を覚える」であった。2位には「よく使う漢字語彙の読み方を覚える」が抽出されている。このことから、「情意カテゴリー」であるこれら2つのストラテジーは、成績に関係なく、両群の学習者に最も使用されている共通のストラテジーだと言えるだろう。

さらに、成績下位群は成績上位群よりも、繰り返し書いたり読んだりする「反復カテゴリー」のストラテジーを多用していることが明らかになった。

一方で、成績上位群のほうが成績下位群よりも多様なストラテジーを使用しながら学習を進めていることも明らかになった。

第8章 日本語教育への提案

今回の調査結果から得られた示唆を基にして、今後の漢字語彙教育に対して以下4点の提案を述べる。

1. 日本語の歌や歌詞を利用した漢字語彙学習の活動

成績上位群と下位群の双方共に、日本語の歌の歌詞を読むといった「文脈カテゴリー」に関するストラテジーや、音楽などを聞きながらリラックスして覚えるストラテジーが上位10位圏内⁷に観察されていた。

以上の結果を踏まえ、今後は初級レベルの授業から積極的に日本語の歌を聞き、歌詞の漢字語彙を読む活動を取り入れるべきだと考える。歌詞で使用されている生の日本語の文脈に数多く触れることで単漢字や文字としての漢字だけではなく、漢字語彙としての学習を進めることが可能であろう。

具体的な活動としては、毎回授業中の10～15分位を日本語の歌の時間として定着させることが考えられる。初級の間は難解な漢字語彙や、複雑な文法を避けるため教師が主導して歌や歌詞を選択する必要があるだろう。しかし、学習レベルが進むに従って、学習者自身に使用する歌や歌詞を選ばせることも可能である。初級レベルから漢字語彙と文脈に数多く触れることは、学習者の漢字語彙学習ストラテジーに対して有益な効果をもたらすと考えられる。

2. 機械的に繰り返し書かせるだけの漢字練習シートの廃止

本研究では「心の中で繰り返し読み方を唱える」ストラテジーの方が、先行研究で報告されていた「漢字を繰り返し書いて覚える」ストラテジーよりも使用頻度上位に観察された⁸。このような「反復カテゴリー」のストラテジーは成績下位群に多用されているストラテジーであり、成績上位群では見られなかった。

以上のことを踏まえ、今後は「手」を使って機械的に何十回と繰り返し書くだけの漢字練習シートや、テストで間違った漢字を複数回書かせるといった課題は、学習者にとって有益な効果をもたらす可能性が低い為その使用を控えるべきだと考える。

⁷成績下位群の「日本語の歌の歌詞を読む」ストラテジーは表23においては11位だが、平均値2.88の同率9位である。

⁸88名全体のストラテジー使用頻度（表19）では、「心の中で繰り返し読み方を唱える」は6位、「たくさん漢字語彙を書いて練習する」は15位である。

3. 漢字語彙学習ストラテジーの積極的な指導

学習者が漢字語彙学習ストラテジーを知ることは、今後の日本語学習にとって大変有効であると考えられる。これまで、DPUでは漢字の授業はほとんど行われていなかった。しかし、今後は教師も漢字語彙学習ストラテジーの重要性をよく理解し、コースシラバスを作成する段階で、ストラテジーを学ぶ時間を設定する必要があるだろう。漢字語彙学習を一方向的に学習者へ委ねることだけは避けるべきである。

また、漢字語彙学習ストラテジーの指導をすることで、学習者自身がどのようなストラテジーを使用しているかについて「気づき」や「意識化」を促進することができると考えられる。その結果、学習者は複数のストラテジーをまとめて使用したり、新たなストラテジーを使用するなど「より、使いやすく」「より、効果的」な漢字語彙学習ストラテジー使用ができるものと考えられる。そのため、今後は教師自身も漢字語彙学習ストラテジーについて十分に知識を深めていく必要があるだろう。

4. 漢字語彙能力評価テストの積極的な利用

学習者が自身の漢字語彙レベルの状態を客観的に把握できるようにするため、積極的にTTBJのようなオンライン評価テストを活用していくべきである。コース開始直後や、コース終了前など一定期間をあけて評価テストを受けることで、教師や学習者自身が漢字語彙学習の進捗状況を客観的に評価することができる。

また、本稿4.2.5で行ったTTBJテストでは、成績に関係がないことを事前に通知していたこともあり学習者からの評判は良く「今後も頻繁に受けてみたい」「復習のために個人的に利用したい」といった声が聞かれていた。このように、点数として明確に測定できることで、学習者の漢字語彙学習へのモチベーション維持へと繋げることも可能であろう。

第9章 今後の課題

本研究では、タイでほとんど研究されていなかった、タイ人学習者の漢字語彙学習ストラテジー使用の傾向について分析を行ってきた。

その結果、従来のストラテジー調査項目には含まれていない詳細な項目を抽出することができたが、いくつかの点で課題も残された。今後の課題としては以下の3点が挙げられる。

1. 調査分析範囲の拡大

今回の調査ではDPUだけでの学習者分析にとどまっている。そこで、今後は他の機関とも連携して、更に幅広く調査分析を行う必要があるだろう。特に、授業内やコースカリキュラムにおいて、漢字を学ぶ時間が設定されている機関では、DPUとは異なる結果が得られると推察される。「授業内で漢字を教える科目や時間がある機関」と「授業内で教える時間がない機関」を比較対照していきたいと考える。

2. 「成績上位群」と「成績下位群」の明確な差別化

今回は「TTBJ 漢字語彙 30」での成績を基にして、「成績上位群」「成績下位群」と学習者を二つのグループに分けて分析を行っている。しかし、成績上位群の最高得点が30点満点中、16点1名という結果にとどまっており、本当の意味で「成績上位群」だったのかには疑問が残る。そこで、今後の課題としては、「TTBJ 漢字語彙 30」において8割の24点以上を獲得した学習者を「成績上位群」として再編し、改めて両群の差別化を行ったうえで、再度分析を行う必要があると考える。

3. 質問紙調査項目の再検討

今回の調査で使用した「漢字語彙学習ストラテジー」の質問紙調査項目には、依然として改善の余地があると考えられる。今後は、学習者の漢字語彙学習ストラテジー使用実態について、更に的確に把握するための質問項目の分析や検証を行い、より現場に相応しい漢字語彙学習ストラテジーの調査項目を作成していく必要があるだろう。

本研究を通して得られた調査結果や示唆を基にして、今後も日本語の教育現場に貢献をしていきたいと考える。

【参考文献】

- 青木多寿子・井邑智哉（2012）「児童生徒への質問紙作成に関する注意点—しなやかさ尺度の評定
カテゴリー数からの検討—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第61号、pp.9-14
- ヴィモンヴィタヤー，チョーラッター（2013）「非漢字圏学習者の漢字字形の識別に関する事例研
究—タイ人高校生日本語学習者を対象にして—」『筑波大学地域研究』第34号、pp.247-270
- ヴェントゥーラ，フランチェスカ（2007）「フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対する
ビリーフとストラテジー使用—漢字教育の改善のために—」『日本語文化研究会論集』第3
号、国際交流基金日本語国際センター、pp.141-168
- ウラムバヤル，ツェツェグドラム（2009）「漢字学習ストラテジーに関する研究の現状と課題—非
漢字圏日本語学習者にとっての効果的な学習ストラテジーとは—」第5号、日本言語文化研究
会論集、pp.43-52
- 大北葉子（1995）「漢字学習ストラテジーと学生の漢字学習に対する信念」『世界の日本語教育』
第5号、国際交流基金日本語センター、pp.105-123
- オックスフォード，R. L.（1990）『言語学習ストラテジー—外国語教師が知っておかなければな
らないこと—』宍戸通庸・伴紀子（訳）、凡人社
- 加納千恵子（1997）「非漢字圏学習者の漢字力と習得過程」『日本語教育論文集—小出詞子先生退
職記念—』凡人社、pp.257-269
- 加納千恵子（2004）「漢字語彙力の評価と漢字教育の方法—教育現場での実践研究のあり方を探
る—」『日本語教育論集』第20号、国立国語研究所、pp.1-17
- 加納千恵子（2008）「外国人の漢字語彙処理能力の評価—WEBによる漢字語彙処理能力テスト—」
『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第23号、pp.135-146
- 加納千恵子（2010）「日本語の漢字・漢字語彙教育研究の課題」『日本語教育研究への招待』くろ
しお出版、pp.43-64
- 加納千恵子・魏娜（2014）「外国人日本語学習者の漢字力の評価について—TTBJ（筑波日本語テス
ト集）を利用して—」『JSL漢字学習研究会誌』第6号、pp.54-62
- 桑原陽子（2000）「非漢字圏日本語学習者の漢字学習におけるイメージ媒介の有効性—漢字と英語
単語の対連合学習課題による検討—」『JW教育心理学研究』第48号、pp.389-399
- 小塩真司（2012）『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第2版』東京図書

- 齊藤禎子（2003）「漢字学習ストラテジーと学習期間との関係：留学中のマレーシア政府派遣留学生を対象とした調査から」『山形大学日本語教育論集』第5号、pp.71-84
- 坂野永理・池田庸子（2009）「漢字圏学習者の漢字学習意識とストラテジー使用」『留学生教育』第14号、留学生教育学会、pp.13-21
- 佐藤曜子・笠原（竹田）ゆう子（2016）「初級から中級にかけて伸びが見られた非漢字圏学習者の漢字学習ストラテジー」第3号、pp.70-71
- ソムチャイ，チャイヤケッタナン（2008）「タイ人日本語学習者の漢字学習に対するビリーフとストラテジー使用」チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座修士論文
- 谷口美穂（2016）「日本留学志望のマレーシア人学習者の漢字学習ストラテジー—学習期間にともなう変化と成績による使用傾向の特徴—」『国際交流基金日本語教育紀要』第12号、pp.7-23
- 筑波日本語テスト集 TTBJ <http://ttbj.jp/index.html> 2017年3月17日参照
- 豊田悦子（1995）「漢字学習に対する学習者の意識」『日本語教育』第85号、pp.101-113
- 中鉢恵一（2006）「漢字学習ストラテジー—漢字学習成功者と不成功者の違いについて—」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』第5号、東洋大学、pp.75-93
- 中村 重穂（1997）「日本語学習者の漢字学習ストラテジーに関する調査と考察」『日本語教育研究』第33号、pp.107-122
- バーク，バーバラ・秋山實（2013）「SILK 漢字学習ストラテジーテストのオンライン化」『JSL 漢字学習研究会誌』第5号、JSL 漢字学習研究会、pp.36-40
- マテラ，ユラ（2013）「特定課題研究報告 チェコの大学における日本語学習者の漢字学習に対する意識とストラテジーに関する調査」『日本言語文化研究会論集』第9号、日本言語文化研究会、pp.65-92
- 尹智鉉（2011）「日本語学習者の第二言語習得と学習ストラテジー」『日本大学人文科学研究研究所研究紀要』第81号、pp.35-58
- 横須賀柳子（1995）「日本語の語彙における学習ストラテジー」『日本語教育の課題 ICU 日本語教育40周年記念論集 国際基督教大学日本語教育研究センター編』東京堂 出版、pp.219-248
- 横須賀柳子（1999）「語彙及び漢字学習ストラテジーの研究」宮崎里司・J. V. ネウストプニー編『日本語教育と日本語学習』くろしお出版、pp.97-116
- 渡部倫子（2015）「非漢字圏学習者のための漢字語彙学習ストラテジー尺度の開発」『漢字・日本語教育研究』第4号、日本漢字能力検定協会、pp.30-64

Bourke, Barbara (2006) Strategy Inventory for Learning Kanji (SILK) Test Instrument for Identifying Strategies in Use for Learning Kanji. Queensland University of Technology, Australia.

(<http://kanji-silk.net/profile/index.php> 2016年9月19日参照)

Oxford, R. L. (1990) Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know Boston: Heinle.

添付資料

添付資料 1. 4.1.5 の DPU での予備調査結果から抽出された 55 項目の漢字語彙学習ストラテジー

項目	ストラテジー
1	漢字語彙と一緒に読み方を書いて覚える
2	漢字語彙リストを繰り返し見る
3	漢字語彙のフラッシュカードを作る
4	付箋に覚えたい漢字語彙を書いて壁に貼り、繰り返し見る
5	漢字語彙を書いた紙を、実物に貼って覚える
6	新しく漢字を勉強したとき、その漢字を含む漢字語彙と一緒に覚える
7	よく使う漢字語彙の読み方を覚える
8	よく使う漢字語彙の意味を覚える
9	漢字語彙を覚えるとき、心の中で繰り返し読み方を唱える
10	自分にとって面白い漢字語彙を覚える
11	自分にとって重要な漢字語彙を覚える
12	新しい漢字語彙を含む例文を覚える
13	漢字学習用のアプリで漢字語彙を覚える
14	漢字学習用のアプリで漢字のクイズをする
15	たくさん漢字語彙を書いて練習する
16	日本語で日本の漫画を読んで、分からない漢字語彙を辞書で調べる
17	漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の部首で推測する
18	文の前後関係で、漢字語彙の意味を推測する
19	日本人の名前で漢字語彙を覚える
20	日本語でゲームをする
21	日本語で書かれたニュースをインターネットで読む
22	日本語の歌の歌詞を読む
23	日本語の小説を読む
24	日本人が書いたブログや SNS の記事を読む
25	ドラマやアニメの中に登場した看板やポスターなどの漢字語彙を注意して見る
26	日本のテレビゲームをしながら、分からない漢字語彙を辞書で調べる
27	文章を書く時、自分が選んだ漢字語彙が正しいかどうか、辞書で調べる

28	SNSの記事を日本語で書く
29	スマートフォンの設定環境を日本語に設定する
30	漢字学習用のアプリで漢字を調べる
31	手書きができる辞書を使って漢字や漢字語彙を調べる
32	インターネットの翻訳サイトを使って漢字語彙の意味を調べる
33	友達と漢字語彙の勉強方法についての情報を交換する
34	漢字語彙について、先生に質問する
35	アニメやゲーム、ドラマのタイトルに使われている漢字語彙を覚える
36	漢字・漢字語彙について、日本人の友達に質問する
37	自分で効果的な勉強方法を探す
38	漢字語彙の意味を含まれるその語彙に含まれる漢字の意味で推測する
39	イメージで漢字語彙を覚える
40	自分で漢字語彙のルールを見つける
41	新しく覚えた漢字語彙の復習をして、忘れていたら何回も書いて練習する
42	紙の辞書で漢字語彙を調べる
43	すきま時間にフラッシュカードで繰り返し練習する
44	漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の意味で推測する
*45	空中に指で空書を行い、筆跡をイメージする
*46	漢字を分解して、パーツとして覚える
*47	音楽を聞きながら、歌詞の漢字や文字を頭の中で思い浮かべる
*48	アニメやゲームに登場するキャラクターの名前から漢字語彙を覚える
*49	写真を撮るような感覚で、漢字語彙を映像として頭に記憶する
*50	読み方を口に出しながら、タイ語の訳語も口に出して覚える
*51	音楽を聞くなどして、リラックスして覚える
*52	漢字の形からストーリーを作って覚える
*53	漢字は一人で集中して覚える
*54	アニメのOP/EDの曲に付いている日本語の歌詞を読む
*55	パソコンのOSやソフトウェアを日本語環境で使用する

(注) *の項目は、予備調査において抽出された、渡部の87項目に含まれない新出ストラテジーである

タイ人日本語学習者の漢字語彙学習に対するストラテジー使用の現状

แบบสอบถามเกี่ยวกับกลยุทธ์ในการเรียนคันจิ

Dhurakij Pundit University

Hidehiro Kobayashi 28/11-02/12/2016

แบบสอบถามนี้มีจุดประสงค์เพื่อศึกษา “กลยุทธ์ในการเรียนคันจิของผู้เรียนชาวไทย” โดยจะนำข้อมูลที่ได้มาใช้เป็นแนวทางในการปรับปรุงการเรียนการสอนให้ดียิ่งขึ้น ข้อมูลส่วนบุคคลจะถูกเก็บเป็นความลับและใช้เพื่องานวิจัยนี้เท่านั้น ผู้ทำวิจัยขอขอบคุณท่านที่ช่วยสละเวลาและให้ความร่วมมือในการตอบคำถามเป็นอย่างยิ่ง

- 1) ชื่อ-นามสกุล 氏名 _____ ID-Number _____
- 2) เพศ 性別 1. ชาย 2. หญิง
- 3) กำลังศึกษาอยู่ชั้น 学年 1. ปี1 2. ปี2 3. ปี3 4. ปี4
- 4) ผลการสอบวัดระดับความสามารถทางภาษาญี่ปุ่น (JLPT) 日本語能力試験(JLPT)の有無
1. N1 2. N2 3. N3 4. N4 5. N5 6. ไม่มี
- 5) (เฉพาะผู้ที่มีผลการสอบวัดระดับ JLPT) ท่านสอบผ่าน JLPT เมื่อใด ค.ศ. (20_____)
(有ると答えた方のみ) JLPT に合格したのはいつですか
- 6) ประสบการณ์การไปศึกษาต่อที่ประเทศญี่ปุ่น (ตั้งแต่ 6 เดือนขึ้นไป) 日本への留学経験 (6か月以上)
1. มี 2. ไม่มี
- 7) จำนวนชั่วโมงโดยเฉลี่ย (ใน 1 วัน) ที่ใช้สมาร์ทโฟนหรืออุปกรณ์อิเล็กทรอนิกส์ (อุปกรณ์ IT) (_____) ชั่วโมง
スマホや IT 機器の平均使用時間 (1日)
- 8) มีเพื่อนชาวญี่ปุ่นหรือไม่ 日本人の友人の有無 1. มี 2. ไม่มี
- 9) ความรู้สึกนึกคิดต่อภาษาญี่ปุ่น 日本語についての意識
1. ชอบมาก 2. ชอบ 3. ไม่ค่อยชอบ 4. ไม่ชอบ
- 10) คุณเรียนภาษาญี่ปุ่นก่อนเข้าศึกษาในมหาวิทยาลัยหรือไม่ 1. ใช่ 2. ไม่
大学に入る前に日本語を学習していましたか
- 11) (สำหรับผู้ที่ตอบว่า "ใช่" ในข้อ 10) กรุณาเลือกสถาบันที่ท่านเรียนภาษาญี่ปุ่น 学習した機関を選んでください
1. โรงเรียนมัธยมศึกษาตอนต้น 中学 2. โรงเรียนมัธยมศึกษาตอนปลาย 高校
3. โรงเรียนสอนภาษาญี่ปุ่น 語学学校 4. เรียนด้วยตัวเอง 自習 5. อื่นๆ その他
- 12) ระยะเวลาที่เรียนภาษาญี่ปุ่น (รวมDPU) (_____)
学習した期間を記入してください(DPUを含む)

タイ人学習者の漢字語彙学習に対するストラテジー使用の質問項目

กรุณา O หัวข้อที่ตรงกับกลยุทธ์ในการเรียนคันจิของท่าน

เสมอ บ่อย บางครั้ง ไม่เคย

		เสมอ	บ่อย	บางครั้ง	ไม่เคย
1	日本語で日本の漫画を読む อ่านหนังสือการ์ตูนญี่ปุ่นเป็นภาษาญี่ปุ่น	4	3	2	1
2	自分にとって重要な漢字語彙を覚える จำคำศัพท์คันจิที่คิดว่าสำคัญและจำเป็นสำหรับตัวเอง	4	3	2	1
3	漢字語彙リストを繰り返し見る ดูทบทวนรายการคำศัพท์คันจิซ้ำหลายๆ รอบ	4	3	2	1
4	漢字学習用のアプリで漢字語彙を覚える จำคำศัพท์คันจิจากแอปพลิเคชันเรียนรู้คันจิ	4	3	2	1
5	漢字語彙を分解して、パーツとして覚える เวลาที่องค์จิจะจำโดยการแยกส่วนประกอบของคันจิออกเป็นส่วนๆ	4	3	2	1
6	スマートフォンの言語環境を日本語に設定する ตั้งคำภาษาในสมาร์ทโฟนให้เป็นภาษาญี่ปุ่น	4	3	2	1
7	友達と漢字語彙の勉強方法についての情報を交換する แลกเปลี่ยนข้อมูลเกี่ยวกับวิธีการเรียนรู้คำศัพท์คันจิกับเพื่อน	4	3	2	1
8	日本語の歌の歌詞を読む อ่านเนื้อเพลงภาษาญี่ปุ่น	4	3	2	1
9	よく使う漢字語彙の意味を覚える จำความหมายของคำศัพท์คันจิที่ใช้บ่อย	4	3	2	1
10	たくさん漢字語彙を書いて練習する ฝึกเขียนคำศัพท์คันจิหลายๆ คำ	4	3	2	1
11	前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する หากเป็นคันจิที่ไม่คุ้นจะใช้บริบท (ข้อความรอบข้าง) เพื่อช่วยเดาความหมาย	4	3	2	1
12	読み方と、タイ語の訳語を交互に口に出しながら覚える ท่องจำโดยอ่านออกเสียงสลับกับคำแปลภาษาไทยออกมาดังๆ	4	3	2	1
13	すきま時間にフラッシュカードで繰り返し練習する ใช้บัตรคำศัพท์ฝึกฝนทบทวนซ้ำหลายๆ ครั้งในยามว่าง	4	3	2	1
14	本やインターネットで漢字の勉強方法を探す ค้นหาวิธีการเรียนรู้คันจิจากหนังสือหรืออินเทอร์เน็ต	4	3	2	1
15	日本人が書いたブログを読む อ่านบล็อกที่คนญี่ปุ่นเขียน	4	3	2	1
16	音楽を聞くなどして、リラックスして覚える เปิดเพลงที่ชอบฟังระหว่างที่ท่องคันจิ	4	3	2	1

		เสมอ	บ่อย	บางครั้ง	ไม่เคย
17	繰り返し指で空書を行い、筆跡をイメージする ใช้นิ้วฝึกเขียนเป็นตัวอักษรบนอากาศหลายๆ รอบ	4	3	2	1
18	漢字語彙の中で漢字の音読み・訓読みを覚える จำทั้งเสียง On และ Kun ของตัวคันจิใหม่ที่เรียนไปพร้อมๆ กัน	4	3	2	1
19	自分で漢字語彙のルールを見つける สืบค้นกฎเกณฑ์เกี่ยวกับคำศัพท์คันจิด้วยตัวเอง	4	3	2	1
20	ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える จดจำคำศัพท์คันจิในละครหรือการ์ตูนอนิเมชัน	4	3	2	1
21	他の人と協力して一緒に練習する ฝึกฝนร่วมกันกับผู้อื่น	4	3	2	1
22	日本語で書かれたニュースをインターネットで読む อ่านข่าวภาษาญี่ปุ่นทางสื่อออนไลน์	4	3	2	1
23	よく使う漢字語彙の読み方を覚える จำเสียงอ่านของคำศัพท์คันจิที่ใช้บ่อย	4	3	2	1
24	心の中で繰り返し読み方を唱える อ่านออกเสียงซ้ำหลายๆ รอบในใจ	4	3	2	1
25	写真を撮るような感覚で、漢字語彙を映像として頭に記憶する บันทึกจดจำคำศัพท์คันจิเป็นภาพลงในสมอง อารมณ์คล้ายการถ่ายภาพ	4	3	2	1
26	漢字語彙と一緒に読み方を書いて覚える ท่องจำโดยการเขียนคำศัพท์คันจิไปพร้อมๆ กับเสียงอ่าน	4	3	2	1
27	日本人の名前から漢字語彙を覚える จดจำคำศัพท์คันจิจากชื่อของคนญี่ปุ่น	4	3	2	1
28	漢字語彙について、日本人の友達に質問する (LINE や FB などの手段も含む) เมื่อไม่รู้คำศัพท์คันจิจะถามเพื่อนชาวญี่ปุ่น(ทั้งถามโดยตรง ถามทางไลน์หรือถามทางเฟซบุ๊ก)	4	3	2	1
29	日本語でテレビゲームをする เล่นวีดีโอเกมเป็นภาษาญี่ปุ่น	4	3	2	1
30	漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える รวบรวมสมาธิท่องจำคันจิอยู่ในห้องส่วนตัว ฯลฯ เพียงลำพังเท่านั้น	4	3	2	1
31	繰り返し読み方を口に出しながら覚える จำคันจิโดยการอ่านออกเสียงดังๆ ในขณะที่เรียน	4	3	2	1
32	漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の部首で推測する เดาความหมายของศัพท์คันจินั้นจากส่วนประกอบของคันจิในคำศัพท์	4	3	2	1
33	同じカテゴリーの漢字語彙を一緒に覚える จดจำคำศัพท์คันจิที่อยู่ในหมวดหมู่เดียวกันไปด้วย	4	3	2	1

		เสมอ	บ่อย	บางครั้ง	ไม่เคย
34	SNS の記事を日本語で書く เขียนข้อความเป็นภาษาญี่ปุ่นในเว็บเครือข่ายสังคมออนไลน์ (SNS)	4	3	2	1
35	漢字語彙について、先生に質問する เมื่อไม่รู้คำศัพท์คันจิจะถามอาจารย์ที่สอนภาษาญี่ปุ่น หรืออาจารย์ที่สอนวิชานั้นๆ	4	3	2	1
36	日本語の小説を読む อ่านนิยายเป็นภาษาญี่ปุ่น	4	3	2	1
37	どれが自分にとって重要な漢字語彙かを判断する พิจารณาว่าคำศัพท์คันจิตัวไหนที่สำคัญและจำเป็นสำหรับตัวเอง	4	3	2	1
38	新しく覚えた漢字語彙の復習をして、忘れていたら何回も書いて練習する ทบทวนคำศัพท์คันจิคำใหม่ หากลืมก็เขียนฝึกฝนซ้ำหลายรอบ	4	3	2	1
39	漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の意味で推測する เดาความหมายของคำศัพท์คันจิจากความหมายของอักษรคันจิที่อยู่ในคำศัพท์นั้นๆ	4	3	2	1
40	音楽を聞きながら、歌詞の漢字や文字を頭の中で思い浮かべる ฟังดนตรีไปพลางนึกถึงคันจิหรือตัวอักษรในเนื้อเพลงไปด้วย	4	3	2	1
41	付箋に覚えたい漢字語彙を書いて自室やトイレの壁に貼り、繰り返し見る เขียนคำศัพท์คันจิที่ต้องการท่องจำลงในโพสต์อิท แล้วนำไปแปะบนกำแพงห้อง ส่วนตัวหรือห้องน้ำ และดูทบทวนอยู่บ่อยๆ	4	3	2	1
42	おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ เลือกตำราเรียนหรือหนังสืออ่านประกอบที่น่าสนใจด้วยตนเอง	4	3	2	1

ขอบคุณในความร่วมมือของท่านเป็นอย่างยิ่ง